



さいたま市

令和7年度
さいたま市学習状況調査
解説資料【改訂版】

【国語】



令和8年2月
さいたま市教育委員会

目 次

調査問題の解説

I 小学校 第3学年

- 1 調査問題【出題の趣旨】 2
- 2 調査問題一覧表【設問別】 3
- 3 正答例 4
- 4 特徴的な問題と解説 5

II 小学校 第4学年

- 1 調査問題【出題の趣旨】 8
- 2 調査問題一覧表【設問別】 9
- 3 正答例 10
- 4 特徴的な問題と解説 11

III 小学校 第5学年

- 1 調査問題【出題の趣旨】 17
- 2 調査問題一覧表【設問別】 18
- 3 正答例 19
- 4 特徴的な問題と解説 20

IV 小学校 第6学年

- 1 調査問題【出題の趣旨】 23
- 2 調査問題一覧表【設問別】 24
- 3 正答例 25
- 4 特徴的な問題と解説 26

V 中・中等教育学校 第1学年

- 1 調査問題【出題の趣旨】 29
- 2 調査問題一覧表【設問別】 30
- 3 正答例 31
- 4 特徴的な問題と解説 32

VI 中・中等教育学校 第2学年

- 1 調査問題【出題の趣旨】 37
- 2 調査問題一覧表【設問別】 38
- 3 正答例 39
- 4 特徴的な問題と解説 40

調査問題等の解説

国語科の調査問題について、小学校第3学年から中学校第2学年まで、以下の内容を掲載しています。「さいたま市小・中一貫教育」の観点からも、小・中学校それぞれの内容を日々の学習指導に役立ててください。

1 調査問題【出題の趣旨】

大問ごとに、出題の意図や趣旨を示しています。特記すべき事項のあるものについては、ここに示しています。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問ごとに、設問のねらい、学習指導要領の領域等、評価の観点、問題形式、正答率(速報値)等を示しています。

3 正答例

問題を解く方法(考え方)やこれまでの学習のつながり等を児童生徒向けに提示しています。

4 特徴的な問題と解説

令和7年度調査において、特徴的な問題を取り上げ、出題の趣旨、指導のポイントを示しています。

また、指導のポイントを具現化し、授業(学び)の改善・充実を図る際の参考となるよう、「学びの知恵袋」として、授業(学び)のアイデアの一例を示しています。

※本書では、調査名について、略称を用いている。

調査名	略称
令和〇年度 全国学力・学習状況調査	令和〇年度全国調査
令和〇年度 さいたま市学習状況調査 小〇国語	令和〇年度市調査【小〇】
令和〇年度 さいたま市学習状況調査 中〇国語	令和〇年度市調査【中〇】

なお、本書で記載している全国調査の正答率は、市の正答率を示している。

I 小学校 第3学年

I 調査問題【出題の趣旨】

言葉の特徴や使い方に関する事項	1	(1)	漢字	<p>本問題は、当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる問題である。</p> <p>なお、「しんせつ」は昨年度同様、小学3年～小学6年の全ての学年で、「おしえる」は小学4年においても出題している。</p>
		(2)	主語と述語	<p>本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなすため、明瞭な文を書く際に最も基礎的な事項であることから、昨年度に引き続き出題した。</p>
	2	(2)	指示語	<p>本問題は、指示語の役割を理解しているかをみる問題である。ここでは、指示語が文や文章の構成に関わる語で、文章の論理的な関係を構築する上で大切な役割を果たしていることを理解しながら、文章を読む力が求められる。</p>
読むこと	2	(1) (3)	自転車の交通ルールについての資料を読む	<p>本問題は、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にすることができるかをみる問題である。ここでは、複数の資料を読み、文と文、資料と資料との関係を押さえ、中心となる語句や文に着目しながら、目的に沿って適切な言葉を選択する力が求められる。</p>
書くこと	3		たこを高くあげる方法をまとめる	<p>本問題は、相手や目的を意識して、集めた材料を活用して、伝えたいことを明確にして書くことができるかをみる問題である。文や文章を整えながら、伝えたいことを伝えるために必要な情報を漏れなく書く力が求められる。</p>
話すこと・聞くこと	4		スピーチの組立てについて考える	<p>本問題は、相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかをみる問題である。ここでは、北原さんのスピーチ原稿を基に、北原さんの話の中心（一番伝えたいこと）を意識しながら、話す内容や動画を流すタイミングについて、資料を見比べながら、適切な助言の内容について考える力が求められる。</p> <p>なお、同一問題を小学4年でも出題している。</p>

2 調査問題一覧表【設問別】(第3学年)

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等						評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)
		(1)	(2)	(3)	A	B	C										
		言葉の特徴や使い方に關する事項	情報の扱い方に關する事項	我が国の言語文化に關する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと										
1	(1) ①	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(親)	○					○			選	46.6	0.5	R6市【小3】	47.6	小4 小5 小6	66.9 71.3 82.7
	(1) ②	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(地)	○					○			選	65.7	0.5	R6市【小3】	69.5		
	(1) ③	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(教)	○					○			選	76.6	0.5	R6市【小3】	78.4	小4	85.8
	(1) ④	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(遠)	○					○			選	77.8	0.4	R6市【小3】	79.6		
	(1) ⑤	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(広)	○					○			選	55.5	0.5	R6市【小3】	63.0		
	(2) ①	文の中の主語と述語の関係を理解することができる。	○					○			選	72.0	0.4	R6市【小3】	76.4		
	(2) ②	文の中の主語と述語の関係を理解することができる。	○					○			選	59.8	0.5	R6市【小3】	52.3		
2	(1)	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて、文章を読むことができる。					○	○			選	80.6	0.4				
	(2)	文の中の指示する語句の役割について理解することができる。	○					○			選	78.6	0.6				
	(3)	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて、文章を読むことができる。						○	○		選	74.9	0.8				
3	(1)	相手や目的に応じて敬体と常体を意識的に使い分け、文末表現に注意しながら文章を整えることができる。					○	○			選	59.5	1.0	H30市【小3】	87.3		
	(2)	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。					○	○			選	59.5	1.1				
	(3)	書こうとすることをはっきりさせ、段落を考えて文章を書くことができる。					○	○			選	25.1	2.1	H30市【小3】	78.8		
4	(1)	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。					○	○			選	21.7	3.0			小4	32.5
	(2)	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。					○	○			選	32.5	4.2			小4	39.6

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答れい【小学校国語 第3学年】

せつもん番ごう		正答れい	かいせつ(考え方・ワンポイントアドバイス・これまでの学しゅうのつながり など)
1	(1) ①	イ	かん字をれんしゅうする時は、かん字の書き方のみをれんしゅうするのではなく、言ばをしらべたり、文をつくったりするなど、文の中でつかうことをいしきましょう。 また、国語じてんやタブレットをつかって言ばをしらべ、言ばをふやしたり、同じ読み方のかん字をかくにんしたりするなど、かん字のもついみを考えてつかうしゅうかんをみにつけましょう。
	(1) ②	ウ	
	(1) ③	ア	
	(1) ④	イ	
	(1) ⑤	イ	
	(2) ①	ア、エ	
	(2) ②	イ、エ	
2	(1)	イ	書かれている文しょうと、表をつなげながら読むことで、文と表のかんけいが見えたり、その文しょうにおける大切な言ばが分かりやすくなったりします。
	(2)	ア	「こそあど言ば」のようなしじ語は、しじ語よりも前にさす言ばがあります。さす言ばをしじ語に当てはめて、いみが通じるかたしかめてみましょう。
	(3)	エ	書かれている文しょうと、表をつなげながら読むことで、文と表のかんけいが見えたり、その文しょうにおける大切な言ばが分かりやすくなったりします。
3	(1)	イ	文しょうを書くときには、文の終わりの言い方をそろえましょう。「です」や「ます」などのていねいな言ばを使ったときには、ぜんぶの文の終わりをていねいな言ばにします。ただし、会話文は話した言ばをそのまま使って書きましょう。
	(2)	ア	文しょうを書くときには、自分のいけんなのか、ほかの人の考えなのかをはっきりさせて書きましょう。書き終わったら、文しょうを一回読みかえすことが大切です。
	(3)	ウ	お礼の手紙は、 ①はじめのあいさつ(きせつの言葉・じこしょうかい) ②本文(相手につたえたいこと) ③おすびのあいさつ(かんしゃの気持ち) ④後づけ(日づけ・自分の名前・相手の名前) のじゅん番に気を付けて書くことがたいせつです。
4	(1)	イ	スピーチをするときは、つたえたいことの手がかりがはっきりするように、話す内よりのじゅんばんをくふうしたり、しゃしんやどう画を使ったりして、聞いている人がイメージしやすいようにすることが大切です。
	(2)	ア	

4 特徴的な問題と解説

小学校第3学年「書くこと」

【特徴的な問題】

問題

3 次は、【たこあげのみつ】について、石本さんが聞いたことや調べたことを文章にまとめたものです。これを読んで、あとの間いに答えましょう。

【たこあげのみつ】

たこあげのみつ 石本 一馬

1 調べたこと・調べた理由
お正月におばあちゃんの家でたこあげをしました。たこあげが上手な人のアドバイスにより、たこが高くあがりました。さらに高くあがる方がないかと思い調べることになりました。

2 分かったこと
(1)あげ方
はじめに、たこあげが上手な人にあげ方を聞きました。たこをあげる時には、風をせ中に受けてたこをあげると（オ）。そのときに糸をピンとはるひつようもある。

(2)天気・場所
たこは、晴れて風のある日に、広い場所であげましょう。くもりの日でもあげられますが、糸が見えにくくなってしまい、おすすめしません。

(3)たこを作るざいりよう
たこを作るざいりようもくふうがひつようです。次のざいりようを注意しましょう。

~~~~~  
(文はこの後もつづいています)

(1) 【たこあげのみつ】のA～Eのうち、書き直した方がよいところを1つえらびましょう。

A あがりました。  
I ひつようもある。  
ウ おすすめしません。  
エ 注意しましょう。

(2) 【たこあげのみつ】の中の（オ）の部分に当てはまる言葉としてもっともふさわしいものを、次の1～4の中から1つえらびましょう。

1 よいそうです  
2 よいと思います  
3 よかったです  
4 よいと考えました

(3) 石本さんは、たこの上手なあげ方をおしえてくれた森田さんにお礼の手紙を書くことにしました。次の①～④をならびかまて手紙を書きます。もっともふさわしいじゆんぎの組み合わせを、次のA～Eの中から1つえらびましょう。

①  
一月十六日 石本 一馬  
森田 太郎 様

②  
寒い日が続いていますが、お元気ですか。わたしは、先日たこの上手なあげ方をおしえていただいた、石本です。

③  
ていねいにおしえてくださり、ありがとうございます。まだまだ寒い日が続きますので、おからだにお気をつけてください。

④  
たこをあげる時は、風が来る方向や、糸のほり方が大切だとわかりました。森田さんがおしえてくださったとおりしたら、たこが高くあがって、とてもうれしかったです。これからもたこあげを楽しみたいです。

A ①→②→③→④  
I ②→③→④→①  
ウ ②→④→③→①  
E ①→②→④→③

#### 出題の趣旨

本問題は、《報告する文章の書き方や、手紙などの定まった形式がある文章の書き方を理解し、目的に応じて正しく書くこと》ができるかどうかをみる問題である。調べたことをまとめる場面や、感謝を伝える手紙を書く場面を設定し、文末表現の統一や、伝えたい事柄を順序立てて構成する力が求められる。

#### 指導のポイント

##### ○ 文末表現(丁寧語)を整え、文章全体の語尾を統一する。

本問題の(1)および(2)のように、文章を書く際、文末を適切な形に整えることが重要である。

児童には、本文全体が「～です・～ます」の丁寧な言葉遣いで書かれていることに着目させたい。そこで、一部だけ不自然になっている表現(例：あがりました、ひつようもある、など)を見直し、文章全体として調和のとれた表現を選ぶよう指導する。最後に、統一した文末表現は、読み手にとって分かりやすいことを共有するとよい。

##### ○ 手紙の形式を理解し、相手に伝わる順序で構成する。

本問題の(3)では、お礼の手紙における「日付・宛名・差出人」の配置や、「時候の挨拶・本題・結びの言葉」という一連の構成を正しく並べ替えさせている。

指導に当たっては、手紙特有の書き出しや終わりの挨拶などの定まった形式を意識させるとともに、読み手にとって自然で読みやすい順序になっているかを検討させる活動を取り入れることで、形式に基づいた実践的な書く力が身に付くようになる。形式に基づいて整理して書く経験が、実生活にも生かせる文章力の育成につながる。



### 【活動のポイント】

モデル学習を通して、児童が自ら、報告文の書き方や、工夫に気付くことができる展開にしていきましょう。(学習調査の問題文も、正しい書き方の穴埋め問題に活用することができます。)

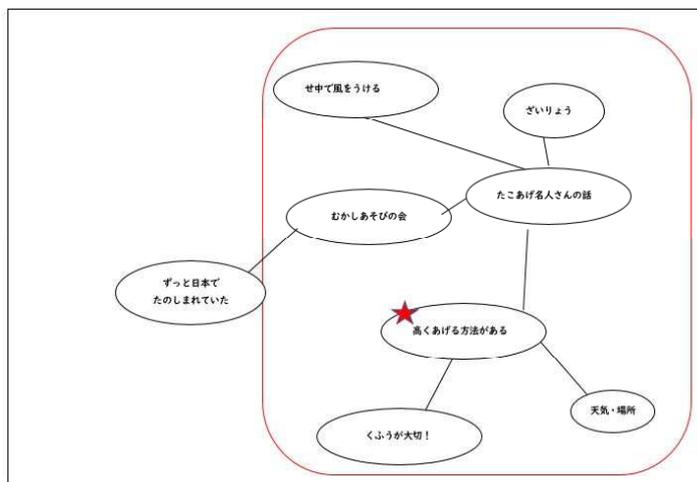


## ② 伝えたいことを明確にしていく活動

→イメージマップや組み立て表を活用した思考の整理

### 【目指す児童の気付き】

「一番伝えたいことは、赤い星の部分だな。」  
「赤い線で囲んだところを伝えたいから、似ている部分はまとめて組み立てようかな。」  
「考えたことも報告文の中に入れよう。」



【活動のポイント】 イメージマップや、調査メモを使い、自分の考えや気付いたことをまとめたり整理したりする過程が、一番伝えたいことを明確にした報告文の完成に繋がります。



## ③ 見通しをもち学習を調整する活動



### 【目指す児童の気付き】

次は⑤の「よりよくする」だな。  
友達と読み合って、正しい言葉で書けているか確かめよう。

【活動のポイント】 児童自ら、よりよい報告文にしたいと思えるよう、『学習の学び方表』等を活用し、学習の「見直し」と「振り返り」を大切にしていきます。単元の途中で似ているテーマの友達と組み立て表を見る時間を取り入れたり、粘り強い取り組みを価値付けたりすることも効果的です。

『学び方』を学ぶことで、児童が今後の生活や他教科での学習に生かせるようにしていきましょう。



### 【参考】

- ・さいたま市教育委員会「令和5年度 さいたま市学習状況調査 正答例等 国語」
- ・国立教育政策研究所「令和6年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」

## Ⅱ 小学校 第4学年

### Ⅰ 調査問題【出題の趣旨】

|                 |   |                   |                         |                                                                                                                                                                                                         |
|-----------------|---|-------------------|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 1 | (1)               | 漢字                      | <p>本問題は、当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる問題である。</p> <p>なお、「しんせつ」は昨年度同様、小学3年～小学6年の全ての学年で、「おしえる」は小学3年においても出題している。</p>                                                                          |
|                 |   | (2)               | 主語と述語                   | <p>本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなすため、明瞭な文を書く際に最も基礎的な事項であることから、昨年度に引き続き出題した。</p>                                                                                                        |
|                 | 2 | (1)               | 指示語                     | <p>本問題は、指示語の役割を理解しているかをみる問題である。ここでは、指示語が文や文章の構成に関わる語で、文章の論理的な関係を構築する上で大切な役割を果たしていることを理解しながら、文章を読む力が求められる。</p>                                                                                           |
| 読むこと            | 2 | (2)<br>(3)<br>(4) | 天気のことわざについての資料を読む       | <p>本問題は、目的を意識して中心になる語や文を見付けながら文章を読むことができるかをみる問題である。ここでは、複数の資料を読み、文と文、資料と資料との関係を捉え、中心となる語句や文に着目しながら、目的に沿って適切な言葉や要素を選択する力が求められる。</p>                                                                      |
| 書くこと            | 3 |                   | 「5年生でがんばりたいこと」を分かりやすく書く | <p>本問題は、相手に伝わりやすいように文章を整えたり、集めた材料を比較したりして、共通する事項に基づいて書く材料を整理できるかをみる問題である。ここでは、一文を読みやすく短くしたり、共通する材料を整理し、見出しを作成したりする力が求められる。</p>                                                                          |
| 話すこと・聞くこと       | 4 |                   | スピーチの組立てについて考える         | <p>本問題は、相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかをみる問題である。ここでは、北原さんのスピーチ原稿を基に、北原さんの話の中心（一番伝えたいこと）を意識しながら、話す内容や動画を流すタイミングについて、資料を見比べながら、適切な助言の内容について考える力が求められる。</p> <p>なお、同一問題を小学3年でも出題している。</p> |

2 調査問題一覧表【設問別】(第4学年)

| 設問番号 | 設問のねらい | 学習指導要領の内容                                           |              |                |              |      |      | 評価の観点 |          |               | 問題形式 | 市      |         | 過去同一問題等      |        | 複数学年での出題       |                      |
|------|--------|-----------------------------------------------------|--------------|----------------|--------------|------|------|-------|----------|---------------|------|--------|---------|--------------|--------|----------------|----------------------|
|      |        | 知識及び技能                                              |              |                | 思考力、判断力、表現力等 |      |      | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |      | 正答率(%) | 無解答率(%) | 出題年度・調査名【学年】 | 正答率(%) | 出題学年           | 正答率(%)               |
|      |        | (1)                                                 | (2)          | (3)            | A            | B    | C    |       |          |               |      |        |         |              |        |                |                      |
|      |        | 言葉の特徴や使い方に關する事項                                     | 情報の扱い方に關する事項 | 我が国の言語文化に關する事項 | 話すこと・聞くこと    | 書くこと | 読むこと |       |          |               |      |        |         |              |        |                |                      |
| 1    | (1) ①  | 当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(消)        | ○            |                |              |      |      |       | ○        |               | 選    | 88.5   | 0.2     | R6市【小4】      | 88.7   |                |                      |
|      | (1) ②  | 当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(教)        | ○            |                |              |      |      |       | ○        |               | 選    | 85.8   | 0.1     | R6市【小4】      | 86.0   | 小3             | 76.6                 |
|      | (1) ③  | 当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(親)        | ○            |                |              |      |      |       | ○        |               | 選    | 66.9   | 0.1     | R6市【小4】      | 66.8   | 小3<br>小5<br>小6 | 46.6<br>71.3<br>82.7 |
|      | (1) ④  | 当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(身)        | ○            |                |              |      |      |       | ○        |               | 選    | 70.4   | 0.2     | R6市【小4】      | 71.8   |                |                      |
|      | (1) ⑤  | 当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(習)        | ○            |                |              |      |      |       | ○        |               | 選    | 87.7   | 0.1     | R6市【小4】      | 89.2   |                |                      |
|      | (2) ①  | 文の中の主語と述語の関係を理解することができる。                            | ○            |                |              |      |      |       | ○        |               | 選    | 49.9   | 0.4     |              |        |                |                      |
|      | (2) ②  | 文の中の主語と述語の関係を理解することができる。                            | ○            |                |              |      |      |       | ○        |               | 選    | 66.2   | 0.4     |              |        |                |                      |
| 2    | (1)    | 文の中の指示する語句の役割について理解することができる。                        | ○            |                |              |      |      |       | ○        |               | 選    | 59.4   | 0.2     |              |        |                |                      |
|      | (2)    | 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて、文章を読むことができる。                  |              |                |              |      |      | ○     | ○        |               | 選    | 77.6   | 0.2     |              |        |                |                      |
|      | (3)    | 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて、文章を読むことができる。                  |              |                |              |      |      | ○     | ○        |               | 選    | 55.9   | 0.3     |              |        |                |                      |
|      | (4)    | 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて、文章を読むことができる。                  |              |                |              |      |      | ○     | ○        |               | 選    | 63.5   | 0.4     |              |        |                |                      |
| 3    | (1)    | 相手や目的に応じて、文章を整えることができる。                             |              |                |              |      | ○    |       | ○        |               | 選    | 62.7   | 0.5     |              |        |                |                      |
|      | (2)    | 相手や目的に応じて、文章を整えることができる。                             |              |                |              |      | ○    |       | ○        |               | 選    | 72.0   | 0.6     |              |        |                |                      |
| 4    | (1)    | 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。 |              |                |              | ○    |      |       | ○        |               | 選    | 32.5   | 1.0     |              |        | 小3             | 21.7                 |
|      | (2)    | 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。 |              |                |              | ○    |      |       | ○        |               | 選    | 39.6   | 1.7     |              |        | 小3             | 32.5                 |

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

### 3 正答れい【小学校国語 第4学年】

| せつ問番号    |          | 正答れい | かいせつ(考え方・ワンポイントアドバイス・これまでの学習のつながり 等)                                                                                                                                  |
|----------|----------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1        | (1)<br>① | ウ    | 漢字を練習する時は、漢字の書き方だけを練習するのではなく、その漢字を使ったじゅく語を調べたり、自分で文を作ったりするなど、文章の中で使うことを意しきして練習しましょう。その時、国語辞典やタブレットを使って、言葉を調べ、使える言葉をふやせるとよりよいです。<br>また、他の教科や日常生活の中でも、学んだ漢字を積極的に使しましょう。 |
|          | (1)<br>② | ア    |                                                                                                                                                                       |
|          | (1)<br>③ | イ    |                                                                                                                                                                       |
|          | (1)<br>④ | ウ    |                                                                                                                                                                       |
|          | (1)<br>⑤ | ア    |                                                                                                                                                                       |
|          | (2)<br>① | ウ、エ  |                                                                                                                                                                       |
| (2)<br>② | イ、エ      |      |                                                                                                                                                                       |
| 2        | (1)      | ア    | 「こそあど言葉」のような指じ語は、指じ語よりも前に指す言葉があります。指す言葉を指じ語に当てはめて、意味が通じるかたしかめてみましょう。                                                                                                  |
|          | (2)      | イ    | 書かれている文章と、表をつなげながら読むことで、文と表の関係が見えたり、その文章における大切な言葉が分かりやすくなったりします。                                                                                                      |
|          | (3)      | イ    |                                                                                                                                                                       |
|          | (4)      | ウ    |                                                                                                                                                                       |
| 3        | (1)      | イ    |                                                                                                                                                                       |
|          | (2)      | ウ    | 新聞を作るときは、とくに伝えたいことを大きな記事にしたり、引き立つ位置に置いたりすることで読む人に伝わりやすくなります。「見出し」は、読む人が記事の内ようがすぐに分かるような短い言葉でまとめましょう。                                                                  |
| 4        | (1)      | イ    | スピーチをするときは、伝えたいことの中心がはっきりするように、話す内よりの順番を工夫したり、写真や動画を使ったりして、聞いている人がイメージしやすいようにすることが大切です。                                                                               |
|          | (2)      | ア    |                                                                                                                                                                       |

## 4 特徴的な問題と解説

### 小学校第4学年「書くこと」

#### 【特徴的な問題】

**問題**

③ 次のそれぞれの問いに答えましょう。

新聞係の石田さんは、同じ学級の中島さんにインタビューした内  
 ようを学級新聞の記事にすることにしました。【文章1】を書き、そ  
 れを読み返して【文章2】のように直しました。

**【文章1】**

わたしは、5年生になったら放送委員会に入りたいと思ってい  
 て、その理由はしょう来アナウンサーになりたいからです。放送  
 委員会に入ったら、はっきりした声で、分かりやすい放送をした  
 いので、放送原こうをまちがえずに読む練習をしようと思ひ  
 ます。

**【文章2】**

わたしは、5年生になったら放送委員会に入りたいです。理由  
 は、しょう来アナウンサーになりたいからです。放送委員会に入  
 ったら、はっきりした声で分かりやすい放送をしたいです。その  
 ために、放送原こうをまちがえずに読む練習をしようと思ひ  
 ます。

(1) 石田さんは、どのようなことに気を付けて直しましたか。あ  
 てはまるものを次のア～エの中から1つ選びましょう。

ア しょう来のゆめについて伝えたいので、アナウンサ  
 ーになりたい理由を書いた。

イ 一文が長いので内ようが伝わりやすいようにいく  
 つかの文に分けた。

ウ 放送委員会の仕事を覚えてほしいので、仕事の内よ  
 うをくわしく書いた。

エ みんなにも放送委員会に入ってほしいので、よびか  
 けの言葉を書いた。

(2) 石田さんと同じ係の林さんは、【文章3】のような新聞記事  
 を書きました。

**【文章3】**

わたしは、5年生になったら、自然のきょう室の発行委員をやりたい  
 です。はじめての宿はく学しゅうなので、クラスを引っばっていきたく  
 からです。そのために、みんなに声をかけることを意きしていきたく  
 います。



**【文章2】【文章3】**の記事にのせる時、どのような見出しを  
 つけますか。あてはまるものを次のア～エの中から1つ選びま  
 しょう。

ア みんなの思い出

イ 楽しみな自然のきょう室

ウ 5年生でがんばりたいこと

エ わたしのしょう来のゆめ

#### 出題の趣旨

本問題は、《読み手にとって分かりやすい文章になるよう、書いたものを見直し、文章を整えること》ができるかどうかをみる問題である。一度書いた文章を読み直し、推敲する場面を設定し、一文の長さを調節したり、記事の内容を適切に表す見出しを選んだりする活動を通して、目的や形式に応じた書く力を身に付けることが重要である。

#### 指導のポイント

##### ○ 文の構成を整え、伝わりやすい一文にする。

本問題の(1)のように、書いた文章を読み手にとって分かりやすく直す際、一文の長さに着目させることが重要である。児童には、【文章1】のように一文が長すぎると、主語と述語の関係が分かりにくくなることに気付かせたい。そこで、本問題では【文章2】のように適切な箇所で見出しを分ける場面を設定した。文の区切りを意識して見直す習慣をつけることで、読み手にとって筋道の通った分かりやすい文章を書く力につながる。

##### ○ 内容を的確に表す見出しを工夫する。

本問題の(2)では、複数の記事に共通する中心となる内容を捉え、適切な見出しを選ばせている。見出しを考える指導に当たっては、自分の書いた文章で「一番伝えたいことは何か」を自問自答させ、短い言葉で表現する活動を取り入れることで、文章全体の構成を意識して書くことができるようになる。

【学びの知恵袋（授業アイデア例）】

<小学国語・4年 書くこと>

<単元名> 調べたことをわかりやすく書こう

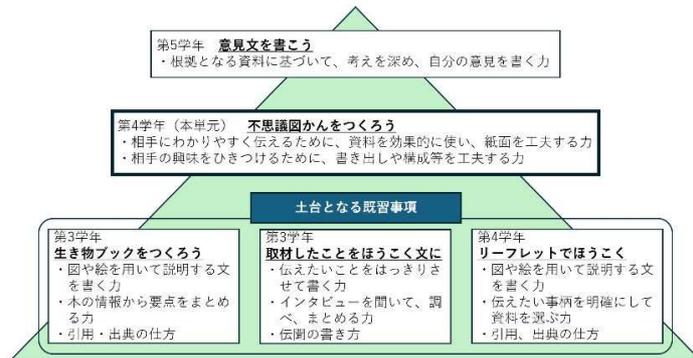
<教材名> 「クラスの『不思議ずかん』を作ろう」（教育出版4年下）

<主な指導事項>

- ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。

【思考力、判断力、表現力等】B（1）ウ

<言語活動とその特徴>



4年生は、「ひみつ」や「なぜ」など様々な情報に興味をもつ児童が増える発達段階です。本単元は、興味のある情報を調べることで、意欲的に活動しやすい内容です。

また、自分の考えを相手に伝えるための「書き表し方」に焦点を当て、高学年の学習につなげることを目的とします。

○単元計画

| 次 | 時           | 主な学習内容                                                                              | 主な学習活動                                                                                                                                                                                            |
|---|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一 | 1           | 【題材の設定】<br>自分の伝えたいこと（テーマ）の設定<br>【情報の整理】（思判表「書くこと」イ）<br>様々な書き表し方の獲得                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項の振り返り、自分自身の興味の確認し、「相手意識」「目的意識」をもつ。</li> <li>・モデル文から、書き表し方の工夫を見付け、「書き方の手引き」にまとめる。</li> </ul>                                                           |
| 二 | 2<br>3<br>4 | 【考えの形成、記述】<br>（思判表「書くこと」ウ）<br>書き表し方の活用<br><br>【共有】（思判表「書くこと」オ）<br>「書き表し方の工夫」の使い方の確認 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書き方の手引き」を参照しながら、書き表し方を工夫し、考えをまとめる。</li> <li>・一次で見付けた「書き表し方」をいくつ使えているか確認する。また、その使い方が正しいかどうかをグループで見合う。</li> <li>・互いの作文を共有し、よりよい「書き表し方」がないかを考える。</li> </ul> |
| 三 | 5           | 【共有】<br>よい文章表現の発見                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成した図鑑を読みながら、よい書き表し方を見付け、「書き方の手引き」にまとめる。</li> </ul>                                                                                                       |

☆単元計画の工夫



「書くこと」の単元は言語活動に時間が取られやすく、予定通りに進みにくい。



そんな時は、何に重きを置くかを決めましょう。  
【内容の検討】【構成の検討】【考えの形成】  
年間を見通した指導計画を決めておきましょう。



本単元は【考えの形成】【共有】に重きを置きたいから、文章量は、少な目で大丈夫です。児童が、表現の仕方と書く目的を意識できるようにします。



小学校第3・4学年 国語 「話すこと・聞くこと」

【特徴的な問題】

**問題**

北原さんのクラスでは、2年生が中学年になる楽しみがふえるように、新しくはじまる学  
しゅうをしようかについて話し合っていました。  
北原さんたちは、スピーチの組み立てについて話し合っています。これを読み、どう画を  
見て、右の問いに答えましょう。



わたしは、毛ひつがすきだから、それをしよ  
うかいたいな。

北原さん

【スピーチらしいB】  
わたしのすきな教科は、書しやです。とくに毛ひつがすきです。どうしてすきだ  
と思ひますか。  
(カ) それは、太くてかっこいい字が書けるからです。  
毎週のじゅぎょうで書いているうちに、どうどうとした字が書けるようになってき  
て、どんどん楽しくなりました。  
(キ) みなさんは、ふてをもったことがありますか。  
(ク) ふては、親ゆびと、人さしゆび、中ゆびで持ちます。くすり指でふてをささえ  
て、小ゆびをそえます。そして、えんぴつよりも立ててもちます。  
すみをたっぶりふくませて、強く力を入れて書くと太い字が書けます。  
(ケ) 毛ひつは、毎日、少しずつ上手くなれます。みなさんもちようせんしてみせ  
んか。

【スピーチらしいA】  
わたしのすきな教科は、書しやです。とくに、毛ひつがすきです。  
はじめに、ふてのもち方を話します。  
まず、親ゆびと、人さしゆび、中ゆびで持ちます。くすり指でふてをささえて、小  
ゆびをそえます。  
そして、えんぴつよりも立ててもちます。  
次に、毛ひつがすきな理ゆうです。それは、太くてかっこいい字が書けるからで  
す。  
書いていくうちに、どうどうとした字が書けるようになってきて、どんどん楽しくな  
ってきました。  
次の書しやの時間がまち違いです。



なるほどね。  
それなら、これはどうかな。

北原さん

それだと……。じよ言A



木村さん



とても分かりやすくなったと思うよ。  
一番つたえたい「太くてかっこいい字が書ける」ということ  
をよりつたわりやすくするために、どう画を見てもらうのはど  
うだろう。ながすタイミングは……。どうしてかという……。  
じよ言B

中西さん

出題の趣旨

本問題は、《相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になる  
よう話の構成を考えること》ができるかどうかをみる問題である。

そのために、習字に関する動画を用いながら2年生に紹介する場面を設定した。ここでは、  
話の中心を捉え、目的に合う資料を選ぶ力が求められる。

指導のポイント

○ 相手に伝わるように、理由や事例を挙げる。

本問題のような「紹介」のスピーチの場合、相手が知らないことについて丁寧に説明  
をしたり、相手にとって理解しやすい事例を挙げたりすることが求められる。

また、紹介することを相手にイメージしやすいように伝えたい。そのため、実物や写  
真、動画を活用することが効果的である。具体物には聞き手を引き付ける力がある。そ  
こで、本問題では、一番伝えたいことを伝わりやすくするために動画を活用する場面を  
設定した。

本問題のように、好きなこと（人・物）を紹介する場合は、その様子や特徴だけでな  
く、エピソードを加えることで、一層、どれくらい好きなかが伝わりやすくなる。

○ 話の中心が明確になるように話を構成する。

前述のように、理由や事例を複数挙げるように指導をすると、目的や話の中心か  
ら離れた内容を挙げる児童がいる。その場合は、話の中心を冒頭で述べ、そのこと  
に合う理由や事例になっているかを検討するよう助言するとよい。

また、聞き手の興味が続く手立てとして、聞き手に問いかける方法がある。資料  
の活用と組み合わせることで、より一層効果的になる。

【学びの知恵袋(授業アイデア例)】

＜小学国語・3年4年 話すこと・聞くこと＞

＜単元名＞ 「2年生に、新しく始まる学習について詳しく伝えよう」

＜教材名＞ 「調べたことを資料にまとめて発表しよう」(教育出版3年下)

＜主な指導事項＞ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。【思考力、判断力、表現力等】A(1)イ

＜言語活動とその特徴＞

低学年の【思考力、判断力、表現力等】A(1)イを受けて、中学年では、話の中心的な部分が明確になるように構成を考える力を身に付けていく。そのため、伝えたいことが良く伝わるよう、相手のことを踏まえて理由や事例を検討する言語活動を設定した。

＜単元計画＞

| 次 | 時 | ○ 主な学習活動                                                                             | ・ 学習内容                 |
|---|---|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 一 | 1 | ○ 伝えたいことを決めて詳しく調べる。                                                                  | ・ 情報収集の仕方              |
| 二 | 2 | ○ 発表計画表を作り、発表の組み立てを考える。                                                              | ・ 話す内容の検討の仕方           |
|   | 3 | ○ 発表計画表をもとに練習する。<br>・ 話の順序を考える。<br>・ 話す内容に合わせ、資料を選び、検討する。<br>・ 資料や動画をどこで見せたら効果的か考える。 | ・ 話の中心部分を明確にする構成の組み立て方 |
| 三 | 4 | ○ 資料を使って発表する。                                                                        |                        |

自分の考えを相手に伝えるためには、資料を活用しながら話すことが大切です。そこで、本授業アイデア例では、自分の考えが伝わるように資料を活用したり、資料を提示しながら話す仕方について検討したりすることの指導事例を紹介します。

Aさんたちの学級では、2年生に向けて来年新しく始まる学習について紹介することにしました。Aさんは、リコーダーが始まることをやその楽しさを紹介することにしました。2年生が「早く吹いてみたい!」と思えるように、資料を使いながら話す練習をしています。

① Aさんが立てた課題

2年生にもリコーダーの魅力が伝わるように、話の順番(構成)や見せる資料をくふうする (ターゲット:これからリコーダーについて学ぶ2年生の子ども)

② Aさんの問いかけ



2年生にリコーダーの魅力を伝えるために、実際に吹いて聴かせたいんだ。お話の最初(1)に吹くか、まとめの時(2)に吹くか迷っているんだけど、どちらのタイミングがいいか聞き比べてアドバイスをもらってもいいかな。

③ 【スピーチの一部】



(1) ←ここで吹く?

みなさん、リコーダーはとてもきれいな音が出る楽器です。例えば、指の穴をしっかりとふさぐと、低い音から高い音まで自由に出せます。今は難しいかもしれないけれど、3年生になるとみんなで合奏もできるようになります。

(2) ←ここで吹く?

私は、みんなで声を合わせて歌うのと同じように、リコーダーで音を合わせるのが大好きです。

#### ④ 友達からの助言

(1)の最初に吹いたほうが良いと思うよ。最初にきれいな音を聴くと、2年生は『わあ、すごい!』って身を乗り出して話を聞いてくれると思うな。



私は(2)の最後に吹いたほうが良いと思う。最後に一番カッコいい曲を吹くことで、『あんなふうになりたい!』という気持ちが強く残るはずだよ。



指の説明をするときに、高い音と低い音をちょっとだけ吹いて(実演して)見せるのもわかりやすいんじゃない?



#### ⑤ Aさんの解決案



みんなのアドバイスを聞いて、今回は(1)の最初に吹くことにするね。まずは2年生にリコーダーの音を好きになってもらいたいから、一番明るい音色の曲を最初に吹いて、みんなの心を惹きつけたいと思います!

#### ⑥ 学習のポイント

スピーチやプレゼンテーションをする際には、目的や意図に応じて、より効果的な資料提示の順番やタイミングなどがあることを理解し、聞き手がどう感じたり、どんなことが分かったりしてほしいかを考えて、自ら判断できるように指導することが大切です。

今回は、中学年の児童が「下の学年にリコーダーの魅力を伝える」という設定を通して、実演(リコーダーを吹くこと)をどのタイミングで行えば、相手の心に最も響くかを検討します。音声と言葉だけでは伝わりにくい「音色」や「演奏の楽しさ」を伝える場合、実演のタイミングが重要になります。

- ・ **最初に示す:** 相手の関心を引きつけ、話に集中させる効果があります。
- ・ **途中に挟む:** 言葉の説明を補い、具体的なイメージ(指使いなど)を助ける効果があります。
- ・ **最後に示す:** 伝えたい印象を強調し、相手の行動意欲(やってみようという気持ち)を高める効果があります。

このように、目的に応じて、資料や実演を意図的に使い分けることが大切です。

#### ⑦ 本授業アイデア例活用のポイント

- ・ 本授業アイデア例のように、一人ひとりが自己の課題を見だし、課題について検討したり改善したりしながら学習を調整する過程を位置付け、協働的に解決しながら話す力を高めることができるように指導すると効果的です。
- ・ 資料を提示する際や、自分の発表を振り返る際などに ICT を活用すると効果的です。

Ⅲ 小学校 第5学年  
Ⅰ 調査問題【出題の趣旨】

|                 |   |                       |                                                                                                                                                               |                                                                                                                               |
|-----------------|---|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 1 | (1)                   | 漢字                                                                                                                                                            | 本問題は、該当学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使うことができているかをみる問題である。<br>なお、「しんせつ」は小学3年～小学6年の全ての学年で、「し(はじめる)」は小学6年においても出題している。                |
|                 |   | (2)                   | 主語と述語                                                                                                                                                         | 本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなすため、明瞭な文を書く際に最も基礎的な事項であることから、昨年度に引き続き出題した。<br>なお、(2)と(3)の同一問題を小学6年においても出題している。 |
|                 |   | (3)                   |                                                                                                                                                               |                                                                                                                               |
|                 |   | (4)                   | 修飾語                                                                                                                                                           | 本問題は、修飾語と被修飾語の関係を理解しているかをみる問題である。文の中での語句相互の関係に気を付け、文の組立てを理解する力が求められる。<br>なお、同一問題を小学6年においても出題している。                             |
|                 |   | (5)                   | 敬語                                                                                                                                                            | 本問題は、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができるかをみる問題である。ここでは、相手と自分との関係や、その場の状況を意識して適切に敬語を使う力が求められる。<br>なお、同一問題を小学6年においても出題している。                 |
| 読むこと            | 2 | なりたい職業についての文章を読む      | 本問題は、目的に応じて、文章と表などの資料を結び付けるなどして必要な情報を見つけて読むことができるかをみる問題である。ここでは、文章全体の構成を捉える力や、複数の情報を関係付けながら、文章を読む力が求められる。                                                     |                                                                                                                               |
| 書くこと            | 3 | 読書月間について新聞にまとめる       | 本問題は、自分の考えが伝わるようにするために、適切な図表を用いることができるかをみる問題である。ここでは、目的や意図に応じて、どのような図表を用いれば効果的かを考える力が求められる。                                                                   |                                                                                                                               |
| 話すこと・聞くこと       | 4 | 資料を画面に映しながらスピーチの練習をする | 本問題は、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現することができるかをみる問題である。ここでは、スピーチで話す内容に適した資料を選択する力や、資料を活用する理由について考える力が求められる。<br>なお、同一問題を小学6年においても出題している。                             |                                                                                                                               |
|                 | 5 | 放送委員会の取組についてインタビューする  | 本問題は、話し手の意図を捉えながら聞き、また、効果的に会話を発展させることができるかをみる問題である。ここでは、それまでの内容をふまえてつづきの考えを述べたり、自分の体験をふまえて質問したりするなどして効果的なインタビューとなるように工夫する力が求められる。<br>なお、同一問題を小学6年においても出題している。 |                                                                                                                               |

2 調査問題一覧表【設問別】(第5学年)

| 設問番号 | 設問のねらい | 学習指導要領の内容                                         |              |                |              |      |      | 評価の観点 |          |               | 問題形式       |        | 市       |              | 過去同一問題等 |                | 複数学年での出題             |  |
|------|--------|---------------------------------------------------|--------------|----------------|--------------|------|------|-------|----------|---------------|------------|--------|---------|--------------|---------|----------------|----------------------|--|
|      |        | 知識及び技能                                            |              |                | 思考力、判断力、表現力等 |      |      | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | 選択式・短答式・選択 | 正答率(%) | 無解答率(%) | 出題年度・調査名【学年】 | 正答率(%)  | 出題学年           | 正答率(%)               |  |
|      |        | (1)                                               | (2)          | (3)            | A            | B    | C    |       |          |               |            |        |         |              |         |                |                      |  |
|      |        | 言葉の特徴や使い方に關する事項                                   | 情報の扱い方に關する事項 | 我が国の言語文化に關する事項 | 話すこと・聞くこと    | 書くこと | 読むこと |       |          |               |            |        |         |              |         |                |                      |  |
| 1    | (1) ①  | 当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(親)      | ○            |                |              |      |      | ○     |          |               | 選          | 71.3   | 0.1     | R6市【小5】      | 73.0    | 小3<br>小4<br>小6 | 46.6<br>66.9<br>82.7 |  |
|      | (1) ②  | 当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(始)      | ○            |                |              |      |      | ○     |          |               | 選          | 73.1   | 0.0     | R6市【小5】      | 77.0    | 小6             | 79.5                 |  |
|      | (1) ③  | 当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(満)      | ○            |                |              |      |      | ○     |          |               | 選          | 92.8   | 0.0     | R6市【小5】      | 93.0    |                |                      |  |
|      | (1) ④  | 当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(完)      | ○            |                |              |      |      | ○     |          |               | 選          | 93.5   | 0.1     | R6市【小5】      | 94.3    |                |                      |  |
|      | (1) ⑤  | 当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(部)      | ○            |                |              |      |      | ○     |          |               | 選          | 83.0   | 0.1     | R6市【小5】      | 82.5    |                |                      |  |
|      | (2)    | 文の中の主語と述語の関係を理解することができる。                          | ○            |                |              |      |      | ○     |          |               | 選          | 67.4   | 0.1     | R6市【小5】      | 66.3    | 小6             | 75.3                 |  |
|      | (3)    | 文の中の主語と述語の関係を理解することができる。                          | ○            |                |              |      |      | ○     |          |               | 選          | 72.6   | 0.1     | R3全国         | 67.2    | 小6             | 79.7                 |  |
|      | (4)    | 文の中の修飾と被修飾の関係を理解することができる。                         | ○            |                |              |      |      | ○     |          |               | 選          | 54.0   | 0.1     | R3全国         | 43.8    | 小6             | 62.9                 |  |
|      | (5)    | 相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができる。                          | ○            |                |              |      |      | ○     |          |               | 選          | 56.7   | 0.0     | R5全国         | 57.8    | 小6             | 66.2                 |  |
| 2    | (1)    | 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けて読むことができる。       |              |                |              |      | ○    |       | ○        |               | 選          | 66.1   | 0.1     |              |         |                |                      |  |
|      | (2)    | 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けて読むことができる。       |              |                |              |      | ○    |       | ○        |               | 選          | 74.3   | 0.1     |              |         |                |                      |  |
|      | (3)    | 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けて読むことができる。       |              |                |              |      | ○    |       | ○        |               | 選          | 86.6   | 0.1     |              |         |                |                      |  |
| 3    | (1)    | 自分の考えが伝わるように、適切な図表を用いて書き表し方を工夫することができる。           |              |                |              |      | ○    |       | ○        |               | 選          | 76.3   | 0.0     | R4市【小5】      | 73.1    |                |                      |  |
|      | (2)    | 自分の考えが伝わるように、適切な図表を用いて書き表し方を工夫することができる。           |              |                |              |      | ○    |       | ○        |               | 選          | 45.0   | 0.1     | R4市【小5】      | 50.8    |                |                      |  |
| 4    | (1)    | 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。            |              |                |              |      | ○    |       | ○        |               | 選          | 66.9   | 0.2     |              |         | 小6             | 71.3                 |  |
|      | (2)    | 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。            |              |                |              |      | ○    |       | ○        |               | 選          | 80.8   | 0.2     |              |         | 小6             | 85.7                 |  |
| 5    | (1)    | 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉えることができる。 |              |                |              |      | ○    |       | ○        |               | 選          | 68.3   | 0.2     |              |         | 小6             | 71.2                 |  |
|      | (2)    | 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。  |              |                |              |      | ○    |       | ○        |               | 選          | 50.2   | 0.3     |              |         | 小6             | 59.4                 |  |

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査「全国」:全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

### 3 正答例【小学校国語 第5学年】

| せつ問番号 | 正答例      | 解説(考え方・ワンポイントアドバイス・これまでの学習のつながり 等) |                                                                                                                                                                                                 |
|-------|----------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1     | (1)<br>① | イ                                  | 漢字を練習する時は、その漢字を使ったじゆく語を調べたり、自分で文を作ったりするなど、文章の中で使うことを意識して練習しましょう。その時、国語辞典やタブレットを使って、漢字がもつ意味をとらえ、使える言葉を増やせるとよりよいです。<br>漢字が正しく書けるようになるには、実際に書いて練習することが有効です。タブレットでの入力だけでなく、実際に書く活動をバランスよく取り入れてください。 |
|       | (1)<br>② | イ                                  |                                                                                                                                                                                                 |
|       | (1)<br>③ | ア                                  |                                                                                                                                                                                                 |
|       | (1)<br>④ | ウ                                  |                                                                                                                                                                                                 |
|       | (1)<br>⑤ | イ                                  |                                                                                                                                                                                                 |
|       | (2)      | イ、エ                                | 主語は、言葉の最後が「～は」「～が」「～も」で終わっているものをさがしましょう。述語は、文の終わりに注目してさがしましょう。その時に主語と述語をつなげて意味が分かるか確かめましょう。ふだんから、主語と述語を意識して文を読んだり書いたりすることが大切です。                                                                 |
|       | (3)      | ウ                                  |                                                                                                                                                                                                 |
|       | (4)      | ウ                                  | くわしくする言葉とされる言葉の関係をとらえるためには、くわしくする言葉とされる言葉の二つの言葉のまとまりに着目し、意味の通るまとまりになっているかを確認することが大切です。                                                                                                          |
|       | (5)      | ア                                  | 敬語には「謙譲語」「尊敬語」「丁寧語」があります。その中の「謙譲語」と「尊敬語」は、その動作が「だれの動作」かによって使い分ける必要があります。自分や身内の動作の時は「謙譲語」、相手や話題となる人の動作は「尊敬語」となります。                                                                               |
| 2     | (1)      | エ                                  | 文章と図表などの資料を結び付け、集めた情報を整理しながら読むと、書き手の意図を理解しやすくなります。                                                                                                                                              |
|       | (2)      | オ                                  | 書き手が、どのような事実を理由や例としてあげているのか、またどのような感想や意見などを持っているのか等に着目して読むことが大切です。                                                                                                                              |
|       | (3)      | イ                                  | 文章と図表などの資料を結び付け、集めた情報を整理しながら読むと、書き手の意図を理解しやすくなります。                                                                                                                                              |
| 3     | (1)      | イ                                  | 新聞などで資料を使うときには、自分の伝えたいことに合わせて「どのような資料を入れると、より効果的か」をよく考えることが大切です。                                                                                                                                |
|       | (2)      | ア                                  | 見出しを付けるときには、まず、「何を伝えたいのか」をはっきりさせましょう。そして、どうしたら読み手の関心を引き付けることができるのかを考えて、「言葉の順序を変えて強調する」「呼びかける表現にする」「キーワードで伝える」など、表現の仕方をくふうしてみましょう。                                                               |
| 4     | (1)      | 4                                  | 今回のスピーチは4つの段落できています。まずは、それぞれの段落が「何を伝えているか」を考えましょう。次に、その「伝えていること」に一番てきた資料がどれかという視点で見比べて、最も関係が深い資料を見付けてみましょう。                                                                                     |
|       | (2)      | 3                                  | スピーチの目的が何かを考えて読むことが大切です。<br>・「提案」…自分の考えた案や意見を出すこと。<br>・「交流」…互いに考えを伝え合うこと。<br>・「発表」…自分が調べたり、考えたりしたことを伝えること。<br>・「質問」…知らないことや聞きたいことをたずねること。                                                       |
| 5     | (1)      | ウ                                  | 情報を集めるためにインタビューをするときは、必要な情報を聞き出すことができるように、目的をもって相手に質問をすることが大切です。                                                                                                                                |
|       | (2)      | イ                                  |                                                                                                                                                                                                 |

## 4 特徴的な問題と解説

### 小学校第5・6学年「書くこと」

#### 【特徴的な問題】

**問題**

(1) 石田さんたちが書いた記事の **A** にはどのような資料を入れたらよいでしょうか。最も適切なものを、次のア～エの中から1つ選びましょう。

- ア 各学年の貸し出し数のグラフ
- イ 去年の山口さんのポップの見本
- ウ スタンプラリーのシートの見本
- エ よく借りられている本のランキング

(2) 石田さんたちは、次の【大見出しのこうほ】の三つの中から【実際の<sup>じつじょう</sup>の大見出し】として③を選びました。③の大見出しは、どのような効果をねらって、表現の仕方をくふうしていますか。③の大見出しの効果として最もふさわしいものを、下のア～ウの中から1つ選びましょう。

【大見出しのこうほ】

①おもしろさ・伝わる・うれしさ  
②ポップで思いを伝えよう  
③ポップで広がる 読書のはば

↓

【実際の<sup>じつじょう</sup>の大見出し】

③ポップで広がる 読書のはば

- ア 読み手に印象づけるために、強調したい言葉を最後に置いている。
- イ 山口さんの話した内容を具体的に示すために、キーワードを複数ならべている。
- ウ 読み手の関心を高めるために、よびかけの言葉を使っている。

#### 出題の趣旨

本問題は、《読み手や目的に応じて、文章全体の構成や表現の仕方を工夫すること》ができるかどうかをみる問題である。新聞記事を作成する場面を設定し、記事の内容を効果的に伝えるための資料（図表）の選択や、読み手の関心を高めるための「見出し」の工夫について、その意図を理解する力が求められる。

#### 指導のポイント

##### ○ 目的や内容に合わせて、効果的な資料を提示する。

本問題の(1)のように、記事の中にどのような資料を提示するかを考える際、その資料が「何を説明するためのものか」を明確にすることが重要である。

児童には、本文中の「去年、人気のあった本」という記述に着目させ、その内容を最も視覚的に裏付ける資料（例：ランキングの表やグラフ）を選ぶよう指導したい。そこで、本問題では、記事と資料を結び付ける場面を設定した。文章と資料を相互に関連付けて読み取る習慣をつけることが、説得力のある文章を書く力を育むことにつながる。

##### ○ 読み手の関心を高める表現（見出し）を工夫する。

本問題の(2)では、複数の候補から、なぜその見出しを選んだのか、その「表現の効果」を考えさせている。見出しを工夫する際は、単に内容を要約するだけでなく、「問いかけの言葉を使って興味を引く」「体言止めで印象付ける」などの具体的な技法を意識させたい。

指導にあたっては、実際に見出しを書き換え、読み手の印象がどのように変わるかを比較・検討する活動を取り入れることで、より目的意識を持った書く活動が可能になる。

【学びの知恵袋(授業アイデア例)】

<小学国語・5年 書くこと>

<単元名> 委員会ポスターをつくろう

<教材名> 「案内やしょうかいのポスター」既習の教科書教材(教育出版5年上)

<主な指導事項> 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 【思考力、判断力、表現力等】B(1)エ

<言語活動とその特徴>

中学年までに学習した「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること」を受けて、5・6年生では、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力(指導事項B(1)エ)を付けていく。そこで、目的や意図に応じて、書き表し方を工夫して書けるように「ポスター作成において、どのような図表やグラフを用いたり、資料を引用したりすれば、伝えたいことが適切に伝わるか検討する」言語活動を設定した。

<単元計画>

| 次 | 時      | 主な学習活動                                         | ○学習内容                                |
|---|--------|------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 一 | 1      | ①ポスターについて知る。<br>②ポスターの内容がより分かりやすく伝わるような工夫を考える。 | ○ポスターの構成<br>・文章量<br>・絵と文章のバランス       |
| 二 | 2<br>3 | ③ポスター作成で伝えたいことを明確にする。<br>④委員会のポスターを作る。         | ・見出しや注意を引く言葉<br>(キャッチコピー等)           |
| 三 | 4      | ⑤ポスターを読み合う。                                    | ・わりつけや図表、写真の示し方の工夫<br>・文字の大きさや色による強調 |

I 時間目の授業の流れ

資料1

資料2

**保 健 委 員 会**

---

Q 保健委員はどんな仕事をしているの?

A トイレ紙・ペーパー・ハンドソープの補充や、けがマップの作成・呼びかけをしています。

**けがマップから分かったこと**

なんと今年は、昨年と比べて室内でのけがが増えていることが分かりました。

①

②

いろいろなけががありますが、室内のけが第1位は「だぼく」です。

～ 保健委員からのお願い ～

外の気温が寒く、校庭で遊ぶことのできない日が続いています。ですが、クラスの中でレクリエーションを巻いたり読書をしたりして上手に室内ですること、けがをへらしていきましょう!!

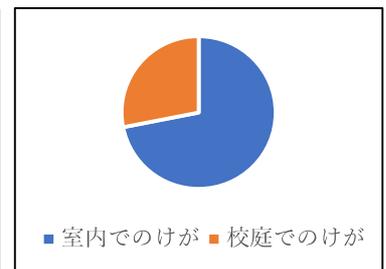
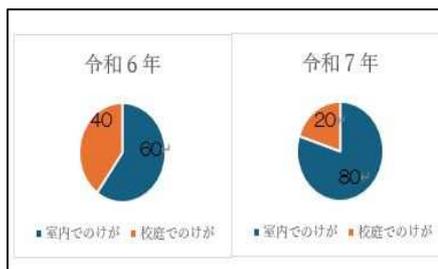
A

B



C

D





みなさんは、これまでにポスターを見たことがありますか。



Aさん



Bさん

Aさん：地域のお祭りや選挙のポスターを見たことがあります。

Bさん：具体的にどのようなものをポスターというのですか。



ポスターとは、イベントや行事などの情報を伝えるために、1枚にまとめて作られるものです。資料1は保健委員会が現在作成中のポスターです。どんな内容が書かれていますか。



Aさん



Bさん

Aさん：保健委員会の仕事内容や室内のけがについて書かれています。

Bさん：①②のところが空いていますね。



①②には、ポスターの内容がより分かりやすく伝わるように工夫をしたいのですが、どのような工夫が考えられるでしょうか。



Aさん



Bさん

Aさん：文章だけだと、けがの数や種類がよく分からないと思います。

Bさん：けがの件数や種類が分かる図などがあると、より内容が分かると思います。



そうですね。では、資料2のA～Dの資料のうち、①と②には、どの資料を入れるとよいか考えてみましょう。



Aさん



Bさん

Aさん：①には、昨年と今年に室内で起きたけがの件数を比べることができる資料Cが適していると思います。

Bさん：②には、資料Bを入れると、室内のけがの種類が載っていてより分かりやすいですね。



図表やグラフがあることで、ポスターの内容がより分かりやすく伝わるのが分かりますね。また、上の空欄には、ポスターの内容を短く表す「見出し」が入ります。どんな言葉や文が考えられますか。



Aさん



Bさん

Aさん：室内のけがが多いことがメインで書かれているので、「目指せ！室内でのけが0！」

はどうでしょうか。

Bさん：ポスターの内容に関連していいですね。でも、0にするのは難しいので、「減らそう！室内でのけが！」にするとさらにいいと思います。



とても印象に残る見出しでよいですね。ポスターは、色々な目的で作られています。次回から、自分の委員会について伝えたいことをもとに、適切な図表やグラフを使って、ポスターを作成していきましょう。

#### IV 小学校 第6学年

##### 1 調査問題【出題の趣旨】

|                 |   |     |                       |                                                                                                                                                                         |
|-----------------|---|-----|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 1 | (1) | 漢字                    | <p>本問題は、該当学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使うことができるかをみる問題である。</p> <p>なお、「しんせつ」は小学3年～小学6年の全ての学年で、「し(はじめる)」は小学5年においても出題している。</p>                                                 |
|                 |   | (2) | 主語と述語                 | <p>本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなすため、明瞭な文を書く際に最も基礎的な事項であることから、昨年度に引き続き出題した。</p> <p>なお、(2)と(3)の同一問題を小学5年においても出題している。</p>                                |
|                 |   | (3) |                       |                                                                                                                                                                         |
|                 |   | (4) | 修飾語                   | <p>本問題は、修飾語と被修飾語の関係を理解しているかをみる問題である。文の中での語句相互の関係に気を付け、文の組立てを理解する力が求められる。</p> <p>なお、同一問題を小学5年においても出題している。</p>                                                            |
|                 |   | (5) | 敬語                    | <p>本問題は、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができるかをみる問題である。ここでは、相手と自分との関係や、その場の状況を意識して適切に敬語を使う力が求められる。</p> <p>なお、同一問題を小学5年においても出題している。</p>                                                |
| 読むこと            | 2 |     | 職業の選び方についての意見文を読む     | <p>本問題は、目的に応じて、文章と表などの資料を結び付けるなどして必要な情報を見つけて読むことができるかをみる問題である。ここでは、文章全体の構成を捉える力や、複数の情報を関係付けながら、文章を読む力が求められる。</p>                                                        |
| 書くこと            | 3 |     | ごみ問題についてまとめる          | <p>本問題は、自分の考えが伝わるようにするために、適切な図表を用いることができるかをみる問題である。ここでは、目的や意図に応じて、資料の構成やどのような図表を用いれば効果的かを考える力が求められる。</p>                                                                |
| 話すこと・聞くこと       | 4 |     | 資料を画面に映しながらスピーチの練習をする | <p>本問題は、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現することができるかをみる問題である。ここでは、スピーチで話す内容に適した資料を選択する力や、資料を活用する理由について考える力が求められる。</p> <p>なお、同一問題を小学5年においても出題している。</p>                            |
|                 | 5 |     | 放送委員会の取組についてインタビューする  | <p>本問題は、話し手の意図を捉えながら聞き、また、効果的に会話を発展させることができるかをみる問題である。ここでは、それまでの内容をふまえて自らの考えを述べたり、自分の体験をふまえて質問したりするなどして効果的なインタビューとなるように工夫する力が求められる。</p> <p>なお、同一問題を小学5年においても出題している。</p> |

2 調査問題一覧表【設問別】(第6学年)

| 設問番号 | 設問のねらい | 学習指導要領の内容                                           |                  |                    |              |      |      | 評価の観点 |          |               | 問題形式 | 市      |         | 過去同一問題等      |         | 複数学年での出題 |                |                      |      |
|------|--------|-----------------------------------------------------|------------------|--------------------|--------------|------|------|-------|----------|---------------|------|--------|---------|--------------|---------|----------|----------------|----------------------|------|
|      |        | 知識及び技能                                              |                  |                    | 思考力、判断力、表現力等 |      |      | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |      | 正答率(%) | 無解答率(%) | 出題年度・調査名【学年】 | 正答率(%)  | 出題学年     | 正答率(%)         |                      |      |
|      |        | (1)                                                 | (2)              | (3)                | A            | B    | C    |       |          |               |      |        |         |              |         |          |                |                      |      |
|      |        | 言葉の特徴や使い方に<br>関する事項                                 | 情報の扱い方に<br>関する事項 | 我が国の言語文化に<br>関する事項 | 話すこと・聞くこと    | 書くこと | 読むこと |       |          |               |      |        |         |              |         |          |                |                      |      |
| 1    | (1) ①  | 当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(親)        | ○                |                    |              |      |      |       | ○        |               |      | 選      | 82.7    | 0.1          | R6市【小6】 | 82.5     | 小3<br>小4<br>小5 | 46.6<br>66.9<br>71.3 |      |
|      | (1) ②  | 当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(始)        | ○                |                    |              |      |      |       | ○        |               |      | 選      | 79.5    | 0.1          | R6市【小6】 | 79.3     | 小5             | 73.1                 |      |
|      | (1) ③  | 当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(借)        | ○                |                    |              |      |      |       | ○        |               |      | 選      | 65.2    | 0.0          | R6市【小6】 | 62.8     |                |                      |      |
|      | (1) ④  | 当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(過)        | ○                |                    |              |      |      |       | ○        |               |      | 選      | 85.8    | 0.1          | R6市【小6】 | 87.0     |                |                      |      |
|      | (1) ⑤  | 当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(象)        | ○                |                    |              |      |      |       | ○        |               |      | 選      | 87.0    | 0.1          | R6市【小6】 | 86.7     |                |                      |      |
|      | (2)    | 文の中の主語と述語の関係を理解することができる。                            | ○                |                    |              |      |      |       | ○        |               |      |        | 選       | 75.3         | 0.0     | R6市【小6】  | 73.5           | 小5                   | 67.4 |
|      | (3)    | 文の中の主語と述語の関係を理解することができる。                            | ○                |                    |              |      |      |       | ○        |               |      |        | 選       | 79.7         | 0.0     | R3全国     | 67.2           | 小5                   | 72.6 |
|      | (4)    | 文の中の修飾と被修飾の関係を理解することができる。                           | ○                |                    |              |      |      |       | ○        |               |      |        | 選       | 62.9         | 0.1     | R3全国     | 43.8           | 小5                   | 54.0 |
|      | (5)    | 相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができる。                            | ○                |                    |              |      |      |       | ○        |               |      |        | 選       | 66.2         | 0.1     | R5全国     | 57.8           | 小5                   | 56.7 |
| 2    | (1)    | 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けて読むことができる。         |                  |                    |              |      |      |       | ○        |               |      | 選      | 67.0    | 0.0          |         |          |                |                      |      |
|      | (2)    | 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けて読むことができる。         |                  |                    |              |      |      |       | ○        |               |      | 選      | 85.6    | 0.1          |         |          |                |                      |      |
|      | (3)    | 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けて読むことができる。         |                  |                    |              |      |      |       | ○        |               |      | 選      | 80.8    | 0.1          |         |          |                |                      |      |
| 3    | (1)    | 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮することができる。               |                  |                    |              |      |      |       | ○        |               |      | 選      | 74.1    | 0.0          |         |          |                |                      |      |
|      | (2)    | 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 |                  |                    |              |      |      |       | ○        |               |      | 選      | 79.4    | 0.1          |         |          |                |                      |      |
| 4    | (1)    | 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。              |                  |                    |              |      |      |       | ○        |               |      | 選      | 71.3    | 0.1          |         |          | 小5             | 66.9                 |      |
|      | (2)    | 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。              |                  |                    |              |      |      |       | ○        |               |      | 選      | 85.7    | 0.1          |         |          | 小5             | 80.8                 |      |
| 5    | (1)    | 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができる。   |                  |                    |              |      |      |       | ○        |               |      | 選      | 71.2    | 0.1          |         |          | 小5             | 68.3                 |      |
|      | (2)    | 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。    |                  |                    |              |      |      |       | ○        |               |      | 選      | 59.4    | 0.2          |         |          | 小5             | 50.2                 |      |

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

### 3 正答例【小学校国語 第6学年】

| 設問番号 | 正答例      | 解説(考え方・ワンポイントアドバイス・これまでの学習のつながり 等)                                                                                |                                                                                                                                                                                               |
|------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1    | (1)<br>① | イ                                                                                                                 | 漢字を練習する時は、その漢字を使った熟語を調べたり、自分で文を作ったりするなど、文章の中で使うことを意識して練習しましょう。その時、国語辞典やタブレットを使って、漢字がもつ意味をとらえ、使える言葉を増やせるとよりよいです。<br>漢字が正しく書けるようになるには、実際に書いて練習することが有効です。タブレットでの入力だけでなく、実際に書く活動をバランスよく取り入れてください。 |
|      | (1)<br>② | イ                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                               |
|      | (1)<br>③ | イ                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                               |
|      | (1)<br>④ | ア                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                               |
|      | (1)<br>⑤ | イ                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                               |
|      | (2)      | イ、エ                                                                                                               | 主語は、言葉の最後が「～は」「～が」「～も」で終わっているものをさがしましょう。述語は、文の終わりに注目してさがしましょう。その時に主語と述語をつなげて意味が分かるかを確認しましょう。ふだんから、主語と述語を意識して文を読んだり書いたりすることが大切です。                                                              |
|      | (3)      | ウ                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                               |
|      | (4)      | ウ                                                                                                                 | くわしくする言葉と、される言葉の関係をとらえるためには、二つの言葉のまとまりに着目し、意味の通るまとまりになっているかを確認することが大切です。                                                                                                                      |
| (5)  | ア        | 敬語には「謙譲語」「尊敬語」「丁寧語」があります。その中の「謙譲語」と「尊敬語」は、その動作が「だれの動作」かによって使い分ける必要があります。自分や身内の動作の時は「謙譲語」、相手や話題となる人の動作は「尊敬語」となります。 |                                                                                                                                                                                               |
| 2    | (1)      | エ                                                                                                                 | 文章と図表などの資料を結び付け、集めた情報を整理しながら読むと、書き手の意図を理解しやすくなります。                                                                                                                                            |
|      | (2)      | エ                                                                                                                 | 書き手が、どのような事実を理由や例としてあげているのか、またどのような感想や意見などをもっているのか等に注目して読むことで、どのようなことを伝えたいのか分かりやすくなります。                                                                                                       |
|      | (3)      | オ                                                                                                                 | 書き手は、自分の考えをより適切に伝えるために、どのように文章を書いているのか、どのような理由や事例を用いることで説得力を高めようとしているかを意識して読むことが大切です。                                                                                                         |
| 3    | (1)      | ①ア ②エ                                                                                                             | 見出しを付けるときには、まず、「何を伝えたいのかをはっきりさせましょう。そしてどうしたら読み手の関心を引き付けることができるのかを考えて、「言葉の順序を変えて強調する」「呼びかける表現にする」「キーワードで伝える」など、表現の仕方を工夫しましょう。                                                                  |
|      | (2)      | ウ                                                                                                                 | 資料を使うときには、自分の伝えたいことに合わせて「どのような資料を入れるのか」また、「どこに着目してもらうと効果的か」をよく考えることが大切です。                                                                                                                     |
| 4    | (1)      | 4                                                                                                                 | 今回のスピーチは4つの段落できています。まずは、それぞれの段落が「何を伝えているか」を考えましょう。次に、その「伝えていること」に一番適した資料がどれかという視点で見比べて、最も関係が深い資料を見付けてみましょう。                                                                                   |
|      | (2)      | 3                                                                                                                 | スピーチの目的が何かを考えて読むことが大切です。<br>・「提案」…自分の考えた案や意見を出すこと。<br>・「交流」…互いに考えを伝え合うこと。<br>・「発表」…自分が調べたり、考えたりしたことを伝えること。<br>・「質問」…知らないことや聞きたいことをたずねること。                                                     |
| 5    | (1)      | ウ                                                                                                                 | 情報を集めるためにインタビューをするときは、必要な情報を聞き出すことができるように、目的をもって相手に質問をすることが大切です。                                                                                                                              |
|      | (2)      | イ                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                               |

#### 4 特徴的な問題と解説

### 小学校第5・6学年 国語「話すこと・聞くこと」

#### 【特徴的な問題】

○問題（5年）大問4（6年）大問4 動画使用問題

#### 出題の趣旨

本問題は、「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現すること」ができるかどうかをみる問題である。ここでは、スピーチで話す内容に適した資料を選択すること及び、資料を活用する理由を考える力が求められる。

#### 指導のポイント

○ **伝えたい「相手」と「目的」を明確にし、伝えたいことに合わせた効果的な資料を、意図をもって選択する。**

本問題では、興味をもった生き物について「紹介文」としてスピーチしている。他にも、高学年では「資料を使った説明文」「意見文」「提案文」「活動報告文」「案内文」「推薦文」などの文章様式で言語活動をしていくことも多い。いずれの場合も、まずは、①誰に向けて話すのか（相手意識）を明確にすること、②何のために話すのかという目的を明確にすることが大切である。

その上で、相手と目的に合った内容や構成を考え、スピーチメモを作成していく。相手が自分の伝えたいことについてどの程度知っているのかによっても、活用する資料は変わってくる。

ここでは、カモノハシを話題にしている。伝えたい相手である同学年の児童はあまり知らないことが想定されるので、詳しく紹介できるよう4つの資料を活用している。写真資料も効果的であるが、カモノハシのくちばしや水かき、尾がどのようになっているのか、どのように餌を食べているのかをさらに分かりやすく伝えられるように動画資料を選択している。

このように、活用できる資料にはさまざまな種類がある。絵や写真、動画、図や表、グラフなどである。さらに、資料の全体を見せるのか一部分だけを見せるのか、そのまま提示するのか拡大して提示するのかなど、見せ方にも工夫が求められる。児童への働きかけとして、③自分が伝えたいことに合った効果的な資料は何かを考えられるような発問を行うことが大切である。

○ **文章（発表原稿）と資料を照らし合わせ、自分の考えをより分かりやすく表現する。**

本問題では、スピーチメモを基に構成を考え、スピーチ（発表原稿）では4つの資料を活用している。発表原稿の各段落で、自分が何を伝えたいのかが明確になっているか、その内容に対して選んだ資料が適切であるかを児童自身がチェックできるようにしたい。また、児童がその資料を活用する理由を自分の言葉で説明できるように指導する。その際、「資料を提示する順番」「資料を見せるタイミング」が効果的か、「資料の見せ方」に工夫があるかを観点として児童に意識させたい。

さらに、発表内容や資料の提示の仕方に応じて、「声の大きさや速さ」「抑揚や間の取り方」など、表現の工夫ができないかを問いかけ、文章構成・資料・話し方が一体となって相手に伝えられるようにしていくことが重要である。こうした表現の工夫を自ら確認するために、ICT機器を活用して、発表の様子を録画し、振り返りながら練習や修正を重ねることも有効である。

【学びの知恵袋(授業アイデア例)】

＜小学国語・5年 6年 話すこと・聞くこと＞

＜単元名＞ 「さいたま市の魅力を調べて発表しよう」

＜教材名＞ 資料を使って効果的に発表しよう（教育出版 5 年下）

＜主な指導事項＞ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

【思考力、判断力、表現力等】A（1）ウ

＜言語活動とその特徴＞

中学年の【思考力、判断力、表現力等】A（1）ウを受けて、高学年では、話の内容を分かりやすく伝えるために、資料を活用するなどして表現を工夫する力を身に付けていく。そのため、音声言語だけで、聞き手が理解しにくならないよう、資料の内容や表示方法を検討する言語活動を設定した。

＜単元計画＞

| 次 | 時 | 主な学習活動                                                                                                          | ○学習内容                                                                                                                  |
|---|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一 | 1 | ①テーマを決め、伝えたいことの中心を考える。                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集の仕方</li> <li>・取り上げる内容に合った適切な資料の検討</li> <li>・話し方や、言葉遣い、資料の示し方の工夫</li> </ul> |
| 二 | 2 | ②発表の準備をする。                                                                                                      |                                                                                                                        |
|   | 3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を集める。→資料を選ぶ。</li> <li>・発表の内容・構成を検討する。</li> </ul> ③発表の練習を行い、内容や方法を見直す。 |                                                                                                                        |
| 三 | 4 | ④資料を使って発表する。                                                                                                    |                                                                                                                        |

自分の考えを相手に伝えるためには、資料を活用しながら話すことが大切です。そこで、本授業アイデア例では、自分の考えが伝わるように資料を活用したり、資料を提示しながら話す仕方について検討したりすることの指導事例を紹介します。

Aさんたちの学級では、さいたま市にある盆栽村について初めて知る人にも分かりやすく伝えるために、必要な情報を集め、提案内容を検討し、話の構成を考えてきました。ここでは、発表に向けて表現を工夫するために、自らが立てた課題について、「資料を効果的に活用しながら話す」という観点で、同じグループの児童が助言し合いながら課題を解決している場面を示しています。

① Aさんが立てた課題

相手に目的に応じて、話の内容に合う資料を用意する（ターゲット：盆栽のことをあまり知らない、市外から来た観光客）。

② Aさんの問いかけ



『大宮盆栽村』は世界中から人が来るすごい場所だって伝えたいんだけど、この資料だけでその魅力がきちんと伝わるかな。スピーチしてみるから、聞いてくれる？

③ 【スピーチの一部】



さいたま市にある大宮盆栽村は、約 100 年前の関東大震災をきっかけに職人さんたちが移り住んでできた場所です。ここにある盆栽は、ただの植物ではなく『生きた芸術』と呼ばれています。中には樹齢数百年というとても古い木もあり、今も成長し続けているのが一番の見どころです。例えば……

大宮盆栽村



#### ④ 友達からの助言

『生きた芸術』って素敵な言葉だね。でも、初めて聞く人にはイメージしにくいかも。普通の植物と何が違うのか、パッと見て分かる工夫があるといいな。



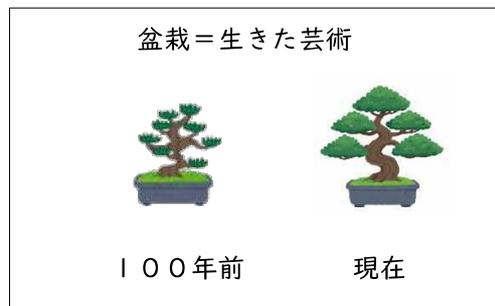
『樹齢数百年』って言葉だけだと、どのくらい長い時間大切にされてきたのか実感がわかないよ。昔の写真とか、何か時間の流れを感じる資料があったらどうかな？



#### ⑤ Aさんの解決案(資料の改善)



こんな資料を用意したんだけど、どうかな。さらに、スピーチの内容に、盆栽はただ育てるのではなく、枝の形を整えて景色を作る」という言葉を付け加えようと思う。



#### 助言をもらった後

- 資料のタイトルを「**盆栽＝生きた芸術**」に変更した。
- **時間の対比**：「100年前の盆栽の写真」と「現在の同じ盆栽の写真」を並べて提示し、形を整えながら受け継がれてきたことを示す。
- **解説の追加**：「ただ育てるだけでなく、枝の形を整えて景色を作る」という盆栽独自のポイントを短い言葉で添える。

#### ⑥ 学習のポイント

音声言語だけでは理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに資料の活用が考えられます。実際に用いる資料としては、相手や目的に応じ、必要な文言や数値などの引用、実物や画像、映像などの使用、図解したものや重要な語句の定義付けなどの明示が考えられます。音声だけでは伝わりにくい「**時間の長さ**」や「**技術の細かさ**」を説明する場合、資料の提示が大変有効です。

#### ⑦ 本授業アイデア例活用のポイント

- (1) 本授業アイデア例のように、一人ひとりが自己の課題を見だし、課題について検討したり改善したりしながら学習を調整する過程を位置付け、協働的に解決しながら話す力を高めることができるように指導すると効果的です。
- (2) 資料を提示する際や、自分の発表を振り返る際などに ICT を活用すると効果的です。たとえば、**発表の様子を録画して比較したり、資料提示の順番をスライドで整理したり**することで、**改善点が明確になります。**

中・中等教育学校 第1学年

1 調査問題【出題の趣旨】

|                                      |          |                        |                                                                                                                                   |
|--------------------------------------|----------|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>話すこと・聞くこと<br/>言葉の特徴や使い方に関する事項</p> | <p>1</p> | <p>案内をする</p>           | <p>文化祭の案内をする場面を設定した。相手の反応を踏まえて言葉を補ったり、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫したりして話すこと、日常よく使われる敬語を理解して使うことを求めている。</p>                             |
| <p>書くこと<br/>言葉の特徴や使い方に関する事項</p>      | <p>2</p> | <p>新聞を書く</p>           | <p>取材で得た情報を基に新聞を書くという場面を設定した。媒体に応じた言葉遣いや段落の役割の理解を求めている。また、文章の内容を簡潔にまとめて書く力を求めている。</p>                                             |
| <p>読むこと<br/>言葉の特徴や使い方に関する事項</p>      | <p>3</p> | <p>文学的な文章を読む</p>       | <p>『流れ星が消えないうちに』という作品を取り上げた。登場人物の心情の変化や行動などについて、描写を基に捉えることや、場面と描写などを結び付けて解釈することを求めている。また、語句の文脈上の意味に注意して、表現の効果について考えることを求めている。</p> |
| <p>我が国の言語文化に関する事項</p>                | <p>4</p> | <p>伝統的な言語文化<br/>書写</p> | <p>古典は『十訓抄』を取り上げ、現代語訳を手掛かりに作品を読むことを通じて、登場人物の言動の内容を的確に読み取ることや、歴史的仮名遣いを理解することを求めている。また、漢字の行書の特徴を理解することを求めている。</p>                   |
| <p>事項<br/>言葉の特徴や使い方に関する事項</p>        | <p>5</p> | <p>漢字<br/>文や文章</p>     | <p>音訓や意味、用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を使うこと、主語を正しく理解することを求めている。</p>                                                                        |

2 調査問題一覧表【設問別】(第1学年)

| 設問番号 | 設問のねらい | 学習指導要領の内容       |              |                |              |      | 評価の観点 |          |               | 問題形式 | 市 | 過去同一問題等 | 複数学年での出題 |         |              |        |      |        |      |
|------|--------|-----------------|--------------|----------------|--------------|------|-------|----------|---------------|------|---|---------|----------|---------|--------------|--------|------|--------|------|
|      |        | 知識及び技能          |              |                | 思考力、判断力、表現力等 |      | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |      |   |         | 正答率(%)   | 無解答率(%) | 出題年度・調査名【学年】 | 正答率(%) | 出題学年 | 正答率(%) |      |
|      |        | (1)             | (2)          | (3)            | A            | B    |       |          |               |      |   |         |          |         |              |        |      |        | C    |
|      |        | 言葉の特徴や使い方に關する事項 | 情報の扱い方に關する事項 | 我が国の言語文化に關する事項 | 話すこと・聞くこと    | 書くこと |       |          |               |      |   |         |          |         |              |        |      |        | 読むこと |
| 1    | 1      |                 |              |                |              | ○    |       |          | ○             |      | 選 | 74.2    | 0.0      |         |              |        |      |        |      |
|      | 2      | ○               |              |                |              |      |       |          | ○             |      | 選 | 93.3    | 0.0      | R6市【中1】 | 79.2         |        |      |        |      |
|      | 3      |                 |              |                |              | ○    |       |          | ○             |      | 選 | 86.7    | 0.0      |         |              |        |      |        |      |
|      | 4      |                 |              |                |              | ○    |       |          | ○             |      | 選 | 58.5    | 0.0      |         |              |        |      |        |      |
|      | 5      |                 |              |                |              | ○    |       |          | ○             |      | 選 | 51.0    | 0.0      |         |              |        |      |        |      |
| 2    | 1      |                 |              |                |              | ○    |       |          | ○             |      | 選 | 78.4    | 0.0      |         |              |        |      |        |      |
|      | 2      |                 |              |                |              | ○    |       |          | ○             |      | 選 | 79.0    | 0.0      |         |              |        |      |        |      |
|      | 3      |                 |              |                |              | ○    |       |          | ○             |      | 選 | 92.9    | 0.0      |         |              |        |      |        |      |
|      | 4      |                 |              |                |              | ○    |       |          | ○             |      | 選 | 40.6    | 0.1      |         |              |        |      |        |      |
| 3    | 1      |                 |              |                |              |      |       | ○        | ○             |      | 選 | 65.4    | 0.1      | R6市【中1】 | 52.9         |        |      |        |      |
|      | 2      |                 |              |                |              |      |       | ○        | ○             |      | 短 | 66.0    | 3.0      |         |              |        |      |        |      |
|      | 3      |                 |              |                |              |      |       | ○        | ○             |      | 選 | 69.0    | 0.2      |         |              |        |      |        |      |
|      | 4      |                 |              |                |              |      |       | ○        | ○             |      | 選 | 75.6    | 0.1      | R6市【中1】 | 71.1         |        |      |        |      |
|      | 5      | ○               |              |                |              |      |       |          | ○             |      | 選 | 85.5    | 0.1      |         |              |        |      |        |      |
|      | 6      |                 |              |                |              |      |       | ○        | ○             |      | 選 | 75.7    | 0.2      | R6市【中1】 | 52.9         |        |      |        |      |
| 4    | 1A     |                 |              | ○              |              |      |       |          | ○             |      | 選 | 34.2    | 6.2      | R6市【中1】 | 70.5         | 中2     | 49.5 |        |      |
|      | 1B     |                 |              | ○              |              |      |       |          | ○             |      | 選 | 57.9    | 3.8      | R6市【中1】 | 70.5         |        |      |        |      |
|      | 2      |                 |              | ○              |              |      |       |          | ○             |      | 選 | 42.7    | 0.3      |         |              |        |      |        |      |
|      | 3      |                 |              | ○              |              |      |       |          | ○             |      | 選 | 88.4    | 0.3      | R6市【中1】 | 79.6         |        |      |        |      |
| 5    | 1①     |                 |              | ○              |              |      |       |          | ○             |      | 選 | 77.0    | 0.3      | R6市【中1】 | 75.6         |        |      |        |      |
|      | 1②     | ○               |              |                |              |      |       |          | ○             |      | 選 | 65.7    | 0.3      | R4市【中1】 | 70.6         | 中2     | 66.9 |        |      |
|      | 2      | ○               |              |                |              |      |       |          | ○             |      | 選 | 84.2    | 0.4      | R6市【中1】 | 57.3         |        |      |        |      |

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。  
 調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査「全国」:全国学力・学習状況調査  
 なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。  
 ※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。  
 ※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。  
 ★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【中・中等教育学校 国語 第1学年】

| 設問番号  | 正答例                                                             | 解説(考え方・フポイントアドバイス・これまでの学習のつながり等)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------|-----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1     | 1 ア                                                             | 下線部の前文「階段をのぼってすぐ左側の教室が、音楽室です。」という文から、現在の場所から音楽室までの道のりを案内していることが分かります。また下線部の「こちら」という言葉より、近くの階段を指し示しながら説明していることが分かります。これらの説明より、聞き手である田村さんがどの階段を使ったらよいか、疑問を感じ取り、山根さんが案内をしていると読み取れるため、選択肢アが正答となります。                                                                                                                                                                            |
|       | 2 ア                                                             | 下線部「拝見いただく」は、「拝見する」と「いただく」の二つの要素で構成されています。「拝見する」は「見る」の謙譲語で、「いただく」は「～してもらう」の謙譲語です。謙譲語は、自分の行為に対して自分がへりくだって使うものです。この場面では、相手に行為に対する敬意を示す尊敬語の「ご覧になる」と、自分がへりくだって使う謙譲語の「いただく」を組み合わせた選択肢アが正答となります。                                                                                                                                                                                 |
|       | 3 ウ                                                             | 下線部前の山根さんの発言は、体育館での催し物について案内をしています。その発言に対して、下線部の発言になるので、体育館以外の催し物の案内を求める発言だと理解できます。また下線部の前文で、「では、体育館の発表ではなく、他の企画を見に行こうと思います。」と言っていることから、体育館の催し物は見に行かないことが明確となります。これらより、選択肢ウが正答となります。                                                                                                                                                                                       |
|       | 4 イ                                                             | 案内役の話し方に関する問題です。会話文の中に、「こちらの階段を…」や(【案内図】を示しながら)「美術室は1階のこちら…」とあることから、身振り・手振りを交えながら話す選択肢イが正答となります。                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|       | 5 ア                                                             | 山根さんの発言からは、美術部が制作に半年かけた「事実」と、作品から山根さんが感じ取った「感想」が伝えられています。また、放送部について、構成から音響までを部員で制作した「事実」と、ムービーからは「青春」を感じることができる山根さんの「感想」が伝えられています。これらより、選択肢アが正答となります。                                                                                                                                                                                                                      |
| 2     | 1 ウ                                                             | 「留学生の様子の変化」を詳しく伝える文を選ぶ問のため、【取材メモ】の中から留学生の様子書かれている部分に着目します。すると、「はじめのうちは留学生は慣れない様子」、「2年1組の説明により留学生たちも満足」、「留学生たちが日本の遊びを楽しんでいる」ことが分かるので、その内容を全て含んでいる選択肢はウになります。                                                                                                                                                                                                                |
|       | 2 ㊸                                                             | ㊸の直後に新聞記事に取り上げられている出来事の紹介が書かれているので、文章冒頭にいきなり2年一組のことが書かれているのは適切です。㊸、㊹以降の文章の内容は、交流会の様子やインタビューした内容が記載されています。㊸の直前には「遊び」の記載があり、「遊び」の内容を伝えるには、㊸の位置が正答ということになります。                                                                                                                                                                                                                 |
|       | 3 ウ                                                             | 新聞の「見出し」は、文章全体の内容を簡潔に示し、全体の記事の内容を一言で伝えるものです。記事には、オーストラリアからの留学生が、わかば中の二年生と日本の昔遊びで交流した内容が書かれています。そのうえで選択肢を見てみると、ア、エの選択肢は、記事の一部分のみに着目した内容になっています。イの選択肢は抽象的な言葉で示していて、記事の内容が伝わってきません。そのため、記事の内容を示しつつ、全体の内容に触れている選択肢はウになります。                                                                                                                                                     |
|       | 4 ア                                                             | 【インタビュー記録の一部】と【新聞】の文章を比べてみると、イ～エの選択肢の内容は含んでいることが分かります。しかし、【新聞】記事の中に高田さんの台詞が載っており、その中に「うれしい」などの高田さんの主観が含まれていることから、アの選択肢が適切で正答となります。                                                                                                                                                                                                                                         |
| 3     | 1 イ                                                             | 下線部①の直前の部分から、「加地君」が予定外に牡羊座の説明をしようとしていることが分かります。下線部の部分では、プラネタリウムの星の動きが不安定であることから、その操作をする科学部員の戸惑いを読み取ることができ、イが正答となります。登場人物の心情が物体の動きを通して表現されています。文学的文章では、このような描写が用いられることがよくあります。文学的文章を読むときには意識してみまじょう。                                                                                                                                                                        |
|       | 2 ※完答<br>A 明るい(4文字)<br>B わかりやす(5文字)                             | 自分のことを地味だと思っている「わたし」に向けて、「加地君」がプラネタリウムのナレーションを通して、魅力に気付いている人がいると伝えるというのが、この物語の大筋です。「わたし」は地味な牡羊座で、その引き合いに出されている派手な星座が牡牛座です。彼女にとって「派手な星座」とはどのような星座なのかは下線部②の直後に説明されているので、そこから逆語を抜き出せばよいでしょう。問題としての難易度は高くはないと思われますが、このような問題を解きながら、物語の大筋(地味な星座の魅力を紹介することで、「わたし」への思いを伝える)に気付くことが大切です。                                                                                            |
|       | 3 ウ                                                             | この物語は「わたし」の視点で語られています。このような物語は、あくまでも語り手の目線で語られているので、「語り手の主観」が含まれるということを念頭に置いて読むことが大切です。例えば、「少年の日の思い出」の「僕」は「エメール」のことを悪くするような部分がありますが、それはあくまでも「僕」から見た人物像に過ぎないということです。そしてそれに気が付くと、物語の解釈が広がったり深まったりするはずですが、下線部③は「わたし」が見た光景です。暗い天球内で、プラネタリウムの星の光でうつつらと加地君の輪郭だけが浮かび上がり、そしてそれが自分の方を向いていることに気が付いた、という状況を読み取ることができたらでしょうか。「わたし」の目には印象的に映っていることが分かるので、「加地君が自分を見ている」という驚きが一層強調されています。 |
|       | 4 ア                                                             | 「誇らしい気持ち」を描写を手掛かりにして、詳細に問うています。問2の解説で示したように、地味だと思っていた自分の星座(牡羊座)の魅力を「加地君」に紹介してもらい、プラネタリウムの観客がうらやんでいる様子を見て、「本当はすごく、将来お金持ちになれる牡羊座なのだ」と喜んでいることが分かります。そのため、アが正答となります。                                                                                                                                                                                                           |
|       | 5 ア                                                             | 今回の文章では「ひゅんひゅんと」は擬態語(オノマトペの1つ)です。オノマトペは、感覚や情景を直感的に伝えることができます。今回は、前後の描写と照らし合わせながら、何の、どんな様子を擬態語で表現しているのかを読み取ることが求められています。直後に「星がいくつも流れていった」とあるので、アの「無数の星が素早く動いた」ことを表現していると判断することができます。                                                                                                                                                                                        |
|       | 6 エ                                                             | この物語のポイントは「わたし」と「牡羊座」を重ね合わせている点にあります。自分が地味だと自覚している「わたし」に向けて、加地君が、同じくあまり目立たない牡羊座の魅力がプラネタリウムの解説を通して語り、その先に「わたし」へのメッセージを投げかけています。下線部⑥は、「顔が熱くなってきた」とあるように、「わたし」の感情が表情に表れていることが分かります。「顔が熱くなる」のは、照れているとき、恥ずかしいとき、興奮したとき、などです。下線部の直前は、加地君の牡羊座に重ね合わせた「わたし」へのメッセージです。これを聞いて「わたし」は「顔が熱くなった」のです。ここから、正答はエであることが分かります。                                                                 |
| 4     | (1)A かようなる                                                      | 古文のきまりの1つである、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問いです。次のような母音の連続は伸ばす音に直すきまりがあります。そのため、本問の場合、「ア段」+「う・ふ」⇒「オ段」の長音(au ⇒ o)に直すきまりに従い、「や」⇒「よ」のように直します。                                                                                                                                                                                                                                              |
|       | (1)B いわれ                                                        | 古文のきまりの1つである、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問いです。歴史的仮名遣いは「は・ひ・ふ・へ・ほ」が、それぞれ現在の「わ行」の音に変化しているものがあります。そのため、本問の場合、「は」⇒「わ」のように直します。                                                                                                                                                                                                                                                            |
|       | (2) ウ                                                           | 楊梅大納言頭雅興の言い間違いを捉える問いです。「時雨」⇒「車」「観音」⇒「ねずみ」と言い間違えており、口語訳を基に考えるとウが正答となります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 5     | (3) イ                                                           | 行書の特徴について理解しているかを問うものです。行書の特徴として、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどが挙げられるので、イが正答となります。                                                                                                                                                                                                                             |
|       | (1)① ア                                                          | 「うつる」の異字同訓の漢字を問うものです。空欄前後から、山々が水面に「うつる」という内容となっています。水や鏡に反射することを表す「うつる」と判断し、正答はアとなります。                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|       | (1)② ウ                                                          | 「つとめる」の異字同訓の漢字を問うものです。「病院につとめる」ということは、すなわち「病院で働く」と言い換えることができます。「ア.務める」は、特定の役割や職務を果たすことを意味し、「イ.努める」は努力して何かをすること、「ウ.勤める」は企業や組織に雇用され、働くこと、「エ.勉める」は勉学に励むことを意味するため、ウが正答となります。                                                                                                                                                                                                   |
| (2) ウ | 文中の主語を指摘する問いです。主語は、述語の主体となります。「『何が』残されたのか」を探すと、「ウ 一輪車」が導き出されます。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

#### 4 特徴的な問題と解説

### 中・中等教育学校第1学年 国語「話すこと・聞くこと」

#### 【特徴的な問題】

1 山根さんは、中学校の文化祭で一般の来場者への案内を担当することになりました。次の【案内図】と、山根さんと来場者の田村さんのやりとりである【案内の様子】を読んで、右の問いに答えなさい。

**【案内図】**

**【案内の様子】**

田村さん：すみません。午後に合唱部の発表があると聞き、見に行きたいのですが、音楽室はどこですか。

山根さん：階段をのぼってすぐ左側の教室が、音楽室です。あつ、こちらの階段をお使いください。

田村さん：ありがとうございます。体育館では、今の時間のような発表をしていますか。

山根さん：体育館では、ステージ上で主に演劇や音楽の発表が行われています。今の時間でしたら、演劇部の舞台をしています。ただし、舞台が終わるまでは観客用のイスには座ることができませんので、入場口付近で立って拝見いただくことになります。

(後略)

1 山根さんが、「あつ、こちらの階段をお使いください。」と発言した理由を説明したものであるとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選びなさい。

ア 田村さんが、どこにある階段を使ったらいいのか疑問を感じていると判断したから。

イ 田村さんが、階段を使うということを理解していないと判断したから。

ウ 田村さんが、合唱部以外の発表も見ようとしていると判断したから。

エ 田村さんが、何階に音楽室があるのか疑問を感じていると判断したから。

#### 出題の趣旨

文化祭の案内をする場面を設定した。相手の反応を踏まえて言葉を補ったり、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫したりして話すこと、日常よく使われる敬語を理解して使うことを求めている。

#### 指導のポイント

##### ○ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する。

「A 話すこと・聞くこと」の学習においては、「話題の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討、考えの形成（話すこと）」、「表現、共有（話すこと）」、「構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）」、「話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）」に関する各指導事項が示す資質・能力を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。

相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫するためには、話す速度や音量・言葉の調子や間の取り方、資料の提示方法を変えることや、相手に伝わりやすい語句の選択や語句の言い直し、または、語句の言い換えなどができるように指導することが重要である。

例えば、聞き手の反応などを踏まえ、スピーチ中に自分の考えが伝わっていないと判断した場合、聞き手の話の受け止め方や理解の状況を捉えて表現を工夫したり、資料や機器を用いて自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫したりすることがより重要になる。

本資料では、聞き手の話の受け止め方や理解の状況を捉えて表現の工夫を促す授業アイディアの一例を次に示す。

## 【学びの知恵袋（授業アイデア例）】

「私の推し」を紹介しよう～相手の反応を踏まえながら話す～

【本アイデア例と関連する問題及び学習指導要領における内容】

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 A

ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

### 学習の流れ

第1時

第2時

#### ① 学習の導入を行う。



教師

皆さんに「推し」はありますか？自分の「推し」の魅力を、それをあまり知らなかったり興味がなかったりする人に伝えるためにはどんなことが必要でしょうか？

〔生徒の発言の例〕



準備をしっかり行って、伝えることを明確にすることが必要だと思います。

話の導入で興味をひいたり、構成を工夫したりすることが大切だと思います。



教師

どれも大切な視点ですね。皆さんはこれまで、しっかり準備をしたのに、自分の思いや意図が相手にうまく伝わらなかったような経験はありませんか？思いや意図が相手にうまく伝わっているかどうかや、相手が理解してくれているかどうかを、皆さんはどのように把握していますか？

〔生徒の発言の例〕



聞いている人が首をかしげたり、怪訝な表情をしたりしていると、うまく伝わっていないのかなと感じることがあります。

聞きながら相槌を打っていたり、「たしかに」などのつぶやきが聞こえたりすると、しっかり伝わっているのだと感じます。



② 学習の見通しをもつ。



教師

私もみなさんの反応を確認しながら、話をしています。  
発表や報告、プレゼンテーションなどを行う際には、ただ原稿通りに話すだけでなく、相手の反応を見ながら話し方や表現を工夫することも大切ですね。この単元では、相手の反応を踏まえながら話すことができるようにしていきましょう。

(単元計画)

「私の推し」を紹介しよう～相手の反応を踏まえながら話す～

【第一次】 2時間

1. 導入・単元の流れの把握
2. 「相手の反応を踏まえながら話す」には？
3. 発表テーマの決定
4. 発表準備・発表メモの作成
5. 練習

【第二次】 1時間

1. 実践
2. 振り返り

【第三次】 1時間

1. 前時の振り返り内容のグループ内での共有
2. まとめ・共有を踏まえての再実践
3. 単元のまとめ

※学習活動だけでなく、目標および単元計画を共有する。必要に応じ、ルーブリックを提示することも考えられる。

③ 話す際に意識する点、工夫の仕方について、グループで考える。



教師

相手の反応を踏まえながら話すには、どのようなことを意識したらいいか、どのような工夫の仕方があるでしょうか。  
それぞれ、グループ(生活班)で考えてみましょう。考えた内容は、クラウド上で共有しましょう。

※生徒の実態に応じて、事前に撮影した教師のモデルを提示する等の工夫が考えられる。

※何人かの生徒のものを取り上げて全体で共有したり、ペアワークや複数人で交流したりする方法等が考えられる。

・どのようなことを意識したらいいか。

○聞き手の反応で意識する点(例)

・うなずき ・表情 ・応答 等

・どのような工夫の仕方があるか。

[生徒の反応の例]

話す速度が速いと、相手の反応が分からないよ。

相手の反応を見ながらしゃべるためには、言葉の調子や間の取り方を工夫することが大切だと思います。



発表原稿をしっかりと作ると、読むことに意識が集中してしまい、相手の反応を確認できません。

発表原稿がメモ形式だと、相手の反応を確認しながら話すことができるかもしれないね。

○聞き手の反応を踏まえて工夫する点(例)

・語句の選択 ・語句の言い直し ・語句の言い換え ・話す速度や音量  
・言葉の調子や間の取り方

※グループで話し合いをする前に、生徒の実態に応じて、教師が観点(例)を1~2つ程度提示したのちに、生徒に考えさせるなどの工夫が考えられる。

④ 発表のテーマを決め、発表メモ作成する。

[生徒の反応の例]

前に文章の読み方を学習したな。



文章の展開の違いを比べたら面白いかな。

⑤ 発表の練習をする。

※④⑤は各自の進度に合わせて取り組む。

※発表のテーマ決めやメモの作成、練習自体は本単元の目標ではないため、書くことが苦手な生徒に対しては、積極的にアドバイスをしたり、他生徒の取組を参考にさせたりする。

### 第3時

⑥ ③で考えた、意識するポイントや工夫の仕方をまとめの内容をクラウド上で共有する。

[生徒の反応の例]

聞き手がうなずいていると、内容が伝わっていると思うから、うなずいているか確認することが大切だと思います。



聞き手の表情をみても、内容が伝わっているか分かります。そのため、表情を確認しながら、話すことが重要です。

⑦ ⑥の意見を踏まえながら、評価の観点を確認する。



教師

相手の反応を踏まえながら話すためには、聞き手のうなずき、表情、応答等を確認しながら、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方を変更したり、言い直しや補足をしたりするといことが分かりますね。

⑧発表を行う。(発表3～4分、振り返り・フィードバック5分×4回)

※発表テーマを Forms などで事前に収集しておき、テーマが異なるもの同士の4人グループを組んでおく。グループや発表スケジュールを事前共有しておく。

※発表者は、発表を自分のタブレットで録音・録画しておく。

※振り返り・フィードバックでは、録音・録画したのも確認しながら、相手の反応に応じて行った工夫やその効果について話し合う。

⑨ 本時の気づきや振り返りをまとめる。

※単元の目標を意識して振り返るように促す。

#### 第4時

⑩ 前時の気づきや振り返りを4人グループ内で共有し、③の内容を改めて考える。

※前時の発表での具体的な場面や様子を想起させながら話し合うようにさせる。

⑪ ⑩を踏まえて、もう一度4人グループ内で発表を行う。

⑫ 単元を通してのまとめの振り返りを行う。

※【振り返りの観点】を示しながら、各自の気づきや学びを言語化させる。

#### 振り返りの観点(例)

- ・相手の反応を踏まえながら話すためには、どのようなことを意識し、どのような工夫をすることが効果的か。
- ・単元の学習を通して気づいたことや学んだことをどのような場面で生かすことができるか。
- ・自分の学習への取り組み方、学び方はどうだったか。

※振り返りは、個人で行うとともに、クラウド上で内容を共有したり、複数人で交流したりすることが考えられる。「よい気づき」があった生徒については、教師が価値づけし、全体で共有する。

#### 【本アイデア例を活用する際のポイント】

○ 指導事項が[第1学年]思考力、判断力、表現力等 A ウ「相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。」にある「相手の反応を踏まえながら」に特化した授業であるため、発表原稿はメモ程度にすること。

○ 他教科等の学習や学校行事等との関連を図り、本単元を位置付けることも有効である。

[例] 「私の探究成果を発表しよう」(総合的な学習の時間)

[例] 「小学6年生に中学校生活を紹介しよう!」(つばみの日)

中・中等教育学校 第2学年

1 調査問題【出題の趣旨】

|                         |   |                |                                                                                                                                               |
|-------------------------|---|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと               | 1 | 話し合いをする        | 生成 AIを学習に利用することについて話し合う場面を設定した。話題や展開を捉えながら、資料を用いて自分の考えを話したり、互いの発言を結び付けて話し合ったりすることを求めている。                                                      |
| 言葉の特徴や使い方に関する事項<br>書くこと | 2 | 意見文を書く         | 令和4年度全国調査を基にした問題で、「先端技術との関わり方」というテーマで意見文を書く場面を設定した。段落の役割を意識して構成を検討することや、読み手の立場を踏まえて説明を加えること、言葉の働きについて理解し目的に応じて使うこと、資料から必要な情報を正しく引用することを求めている。 |
| 読むこと                    | 3 | 説明的な文章を読む      | 『生き物が大人になるまで』から連続する2つの章を取り上げ、目的に応じて適切な情報を得たり、文章と図表を結び付けたりして内容を解釈することを求めている。また、2つの章を関連させ、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることを求めている。                     |
| 我が国の言語文化に関する事項          | 4 | 伝統的な言語文化<br>書写 | 古典は『十訓抄』を取り上げ、現代語訳を手掛かりにして作品を読むことを通して文章の展開を捉えることや、歴史的仮名遣いを理解することを求めている。また、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解することを求めている。                                   |
| 言葉の特徴や使い方に関する事項         | 5 | 漢字<br>文や文章     | 音訓や意味、用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を使うこと、文の主語を正しく捉えることを理解することを求めている。                                                                                   |

2 調査問題一覧表【設問別】(第2学年)

| 設問番号 | 設問のねらい | 学習指導要領の内容       |              |                |              |      |      | 評価の観点 |          |               | 問題形式   |        | 市       |              | 過去同一問題等 |      | 複数学年での出題 |  |
|------|--------|-----------------|--------------|----------------|--------------|------|------|-------|----------|---------------|--------|--------|---------|--------------|---------|------|----------|--|
|      |        | 知識及び技能          |              |                | 思考力・判断力・表現力等 |      |      | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | 選択式・選択 | 正答率(%) | 無解答率(%) | 出題年度・調査名【学年】 | 正答率(%)  | 出題学年 | 正答率(%)   |  |
|      |        | (1)             | (2)          | (3)            | A            | B    | C    |       |          |               |        |        |         |              |         |      |          |  |
|      |        | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 情報の扱い方に関する事項 | 我が国の言語文化に関する事項 | 話すこと・聞くこと    | 書くこと | 読むこと |       |          |               |        |        |         |              |         |      |          |  |
| 1    | 1      |                 |              |                | ○            |      |      | ○     |          | 選・短           | 67.0   | 0.1    | R6全国    | 68.8         |         |      |          |  |
|      | 2      |                 |              |                | ○            |      |      | ○     |          | 選             | 83.8   | 0.1    |         |              |         |      |          |  |
|      | 3      |                 |              |                | ○            |      |      | ○     |          | 選             | 82.4   | 0.0    | R6市【中2】 | 76.0         |         |      |          |  |
|      | 4      |                 |              |                | ○            |      |      | ○     |          | 選             | 85.3   | 0.0    |         |              |         |      |          |  |
| 2    | 1      |                 |              |                |              | ○    |      | ○     |          | 選             | 67.7   | 0.1    |         |              |         |      |          |  |
|      | 2      | ○               |              |                |              |      |      | ○     |          | 選             | 77.7   | 0.1    | R4全国    | 82.6         |         |      |          |  |
|      | 3      |                 |              |                |              | ○    |      | ○     |          | 選             | 76.9   | 0.1    |         |              |         |      |          |  |
|      | 4      |                 |              |                |              | ○    |      | ○     |          | 選             | 36.0   | 0.1    |         |              |         |      |          |  |
| 3    | 1      |                 |              |                |              |      | ○    | ○     |          | 選             | 55.5   | 0.1    | R6市【中2】 | 78.8         |         |      |          |  |
|      | 2      |                 |              |                |              |      |      | ○     | ○        | 短             | 71.9   | 5.6    | R6市【中2】 | 69.4         |         |      |          |  |
|      | 3      |                 |              |                |              |      |      | ○     | ○        | 選             | 39.4   | 0.2    | R6市【中2】 | 78.8         |         |      |          |  |
|      | 4      |                 |              |                |              |      |      | ○     | ○        | 選             | 57.9   | 0.2    | R6全国    | 36.7         |         |      |          |  |
|      | 5      |                 |              |                |              |      |      | ○     | ○        | 選             | 58.9   | 0.3    |         |              |         |      |          |  |
|      | 6      |                 |              |                |              |      |      |       | ○        | ○             | 短      | 73.5   | 7.0     |              |         |      |          |  |
| 4    | 1      |                 |              | ○              |              |      |      | ○     |          | 選             | 54.2   | 0.3    | R6市【中2】 | 34.3         |         |      |          |  |
|      | 2      |                 |              | ○              |              |      |      | ○     |          | 選・短           | 49.5   | 5.9    | R6市【中2】 | 83.9         | 中1      | 34.2 |          |  |
|      | 3      |                 |              | ○              |              |      |      | ○     |          | 短             | 46.4   | 6.1    |         |              |         |      |          |  |
|      | 4      |                 |              | ○              |              |      |      | ○     |          | 選             | 67.8   | 0.6    | R6市【中2】 | 71.8         |         |      |          |  |
| 5    | (1)①   | ○               |              |                |              |      |      | ○     |          | 選             | 71.1   | 0.6    | R5市【中2】 | 74.4         |         |      |          |  |
|      | (1)②   | ○               |              |                |              |      |      | ○     |          | 選             | 66.9   | 0.6    | R4市【中1】 | 70.6         | 中1      | 65.7 |          |  |
|      | (2)    | ○               |              |                |              |      |      | ○     |          | 選             | 57.3   | 0.6    | R6市【中2】 | 61.1         |         |      |          |  |

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査「全国」:全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【中・中等教育学校 国語 第2学年】

| 設問番号 | 正答例                                            | 解説(考え方・ワンポイントアドバイス・これまでの学習のつながり等)                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1    | 1 イ                                            | 話し合では、話し相手との共通点や相違点を整理して、自分の立場を伝える場面があります。西田さんは、話し合いで共有している資料を活用して、視覚的にも分かりやすく、自分の立場を伝えようとしています。西田さんは、生成AIを学習に役立てるための知識がある点では、藤谷さん、久保さんと共通しています。しかし、学習に利用することはほとんどないという点で、彼らと相違があります。従って、正答はイとなります。                                                                                               |
|      | 2 ウ                                            | 話し合では、話題にしている内容のメリットだけでなく、デメリットについても考え、物事を多角的に捉える視点も必要です。久保さんは、生成AIの利便さを理解した上で活用していますが、活用のしずが思考力低下を招くことを危惧しています。その上で、生成AIを利用する際に気を付けていくべきことについて、藤谷さんたちの同意を得るように質問しています。従って、正答はウとなります。                                                                                                             |
|      | 3 ア                                            | 話し合いで資料を活用する際は、話題と資料の内容を関連させることが大切です。武井さんは、資料から読み取れることを提示し、それまで話題になっていたことを踏まえて、結果を分析しています。さらに、分析したことに関連させて、生成AIの情報をうのみにすることの危険性に関する武井さん自身の体験も語っています。従って、正答はアとなります。                                                                                                                                |
|      | 4 イ                                            | 「つまり」という接続詞を用いて、直前の久保さんの発言について、藤谷さんの解釈で言い換えています。「生成AIが提示する内容は、正しい答えとは限らない」という久保さんの発言を、「『答えを教えてください先生』ではなく」と言い換えています。生成AIを「友達の考えを聞いて、それを踏まえて自分の考えを深めるときと同じように」使うという久保さんの発言は、「『一緒に考えるパートナー』として使えばいい」という表現で言い換えています。従って、正答はイとなります。                                                                   |
| 2    | 1 エ                                            | 意見文を書く際には、それぞれの段落の役割を意識し、内容の中心としたい事柄が際立つように、構成や展開を考えることが大切です。【意見文の下書き】の二段落目には、スマート農業について小林さんが祖父母から伝え聞いたことが書かれていますが、「今後、私たちの身の回りには……」から始まる最後の二文には、先端技術についての今後の展望と、それに対する小林さんの考えが書かれています。この部分を三段落目にするとして、小林さんの考えがより際立ちます。したがって、正答はエとなります。                                                           |
|      | 2 エ                                            | 助動詞のはたらきを理解し、目的に応じて適切に使うことによって、伝えたい微妙なニュアンスを相手に伝えることができます。この問題では、伝聞の意味をもつ助動詞「そうだ」を使うことで、小林さんが祖父母から伝え聞いた話であるということが明確になります。したがって、正答はエとなります。                                                                                                                                                         |
|      | 3 B                                            | 【コメント①】の佐藤さんの指摘のとおり、「スマート農業」は一般的に広く知られている言葉ではないため、【意見文の下書き】の中でこの言葉が初めて使用される文の直前または直後に「スマート農業」についての説明があるとよいと考えられます。Aの前後の文は内容につながりがあるため、Bの位置に説明を追加するのが適切と考えられます。このように、受け手が想定される言語活動においては、受け手の立場に立って言葉を選択したり、表現を工夫したりすることが大切です。                                                                      |
|      | 4 ア                                            | この問題では、意見文に書かれている「作業の自動化」以外のスマート農業の効果も、【引用の仕方に関する助言】に沿って資料から引用することが求められます。イは既に書かれている「作業の自動化」についての記述です。ウは「」が使用されておらず、【引用の仕方に関する助言】に沿っていません。また、エは引用元の資料の文意を損ねてしまっています。したがって、正答はアとなります。引用の仕方について指導する際には、「出典を明示すること」「引用部分が適切な量であること」などにも留意する必要があります。                                                  |
| 3    | 1 ア                                            | この問題は、説明的な文章において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することを求めています。本文は、「植物は種子から芽を出して、茎を伸ばし、花を咲かせます。そして種子を作るのです。この成長から見れば、Bの方が明らかに成長しています。」と述べています。したがって、正答はアとなります。イについては、本文において「草丈が伸びているかが植物の成長の基準」とは断言されていません。ウ・エについては、本文と一致しません。                                                                      |
|      | 2<br>・数字で表すことのできる<br>・「数字が増える」という<br>(どちらでも正答) | この問題は説明的な文章において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することを求めています。「ものさしで『草丈』をはかりたくてしまう」理由は、「そのため」という接続詞に注目して読むことで導き出すことができます。したがって、正答は「数字で表すことのできる」となります。その他に、「『数字が増える』という」という解釈も正答です。                                                                                                                  |
|      | 3 ウ                                            | この問題は説明的な文章において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することを求めています。本文は、「分げつが増えている間、イネは葉を茂らせますが、茎を伸ばすことはありません」と述べています。したがって、正答はウとなります。アイエについては、本文と一致しません。                                                                                                                                                 |
| 4    | 4<br>※完答<br>ア、ウ                                | この問題は、文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することを求めています。文章と図表などの関連には、断片的な情報がお互いに内容を補充し合っている場合や、文章が図表の解説になっている場合があります。文章Ⅱの図は、4月～10月のイネの成長の仕方のイメージイラストが描かれており、読み手に「イネの成長を思い浮かべることができるように本文の説明を補助」する役割があるとともに、本文中の「成長のステージ」が変化していることに気付かせる役割があります。したがって、正答はア・ウとなります。                                            |
|      | 5 エ                                            | この問題は、文章の構成や論理の展開を把握し、表現の効果に着目して読むことを求めています。Ⅰの文章は、一般的な植物の「成長」に関して、筆者の問いかけとともに述べられています。Ⅱの文章は、さらに具体的な「イネ」の成長について述べられています。したがって、正答はエとなります。ア・イ・ウについては、本文と一致しません。                                                                                                                                      |
|      | 6<br>質が変化する                                    | この問題は、説明的な文章において、文章中に示されている具体例と、書き手の主張との関係を考えながら内容を把握することを求めています。Ⅰの文章の本文は、草丈が増える植物Aと、草丈は増えないが「花を咲かせている植物Bが具体例として示されています。本文は、「成長とは、ただ『数字が増える』ということだけではありません。」「生物にとっては、質が変化するこのほうが、ずっと重要であることが多いのです。」と述べています。問題では、太郎さんは、植物を人間に置き換えて、身長や体重などの数字の変化ではない、思考力や精神的な変化について注目しています。したがって、正答は「質が変化する」となります。 |
| 5    | 1 ア                                            | 口語訳を基にして文章の展開を捉え、主語を答える問いです。「1日目に「楊梅大納言顕雅卿は、若い時からたくさん言い間違いをなされた」とあります。この設問は「時雨が降ってきたから、車をしまいなさい」を、「車が降ってきたから、時雨をしまいなさい。」と言い間違ってしまった人物の言動のため、楊梅大納言顕雅卿の台詞と解釈されます。                                                                                                                                   |
|      | 2<br>かようなる                                     | 古文のきまりの1つである、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問いです。次のような母音の連続は伸ばす音に直すきまりがあります。そのため、本問の場合、「ア段」+「う・ふ」⇒「オ段」の長音(au → ô)に直すきまりに従い、「や」⇒「よ」のように直します。                                                                                                                                                                     |
|      | 3<br>※完答<br>A 車<br>B ねずみ/三尺のねずみ<br>(Bはどちらでも正答) | 2人の感想の伝え合いから、楊梅大納言顕雅卿の言い間違いを捉える問いです。「時雨」⇒「車」「観音」⇒「ねずみ」と言い間違えており、口語訳を基に穴埋めすると、Aが車、Bがねずみが正答となります。                                                                                                                                                                                                   |
|      | 4 イ                                            | 点画の丸み、点画の方向や形の変化、点画の連続、点画の省略など、行書の特徴と、行書に調和する仮名の書き方を理解しているかを問う問いです。平仮名は漢字よりも小さめに書くといわれています。                                                                                                                                                                                                       |
| 5    | (1)① ア                                         | 文脈に即して「はか(る)」の漢字を問うものです。空欄直前から、「実行する」という意味であることが判断されるので、正答はアとなります。                                                                                                                                                                                                                                |
|      | (1)② ウ                                         | 「つとめる」の異字同訓の漢字を問うものです。「病院につとめる」ということは、すなわち「病院で働く」と言い換えることができます。「ア.務める」は、特定の役割や職務を果たすことを意味し、「イ.努める」は努力して何かをすること、「ウ.勤める」は企業や組織に雇用され、働くこと、「エ.勉める」は勉学に励むことを意味するため、ウが正答となります。                                                                                                                          |
|      | (2) イ                                          | 文中の主語を指摘する問いです。主語を見つける際、まず述語を探します。述語は「どうする、どんなだ、何だ」を表し、原則として文の一番最後にくるので、「遊んだ」となります。一方、主語は、述語の主体となります。「『誰が』遊んだのか」を探すと、「イ 兄も」が導き出されます。主語は「一が」「一は」などで示されることが多いですが、「も・だって・こそ・しか・さえ」なども主語であることに注意してください。                                                                                               |

#### 4 特徴的な問題と解説

### 中・中等教育学校第2学年 国語 「読むこと」

#### 【特徴的な問題】

問題

稲垣 栄洋 著 「生き物が大人になるまで」による

#### 出題の趣旨

連続する2つの章を取り上げ、目的に応じて適切な情報を得たり、文章と図表を結び付けたりして内容を解釈することを求めている。また、2つの章を関連させ、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることを求めている。

#### 指導のポイント

##### ○ 文章を読み比べることを通して、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える。

「C 読むこと」の学習においては、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成、共有」に関する各指導事項が示す資質・能力を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。教材については、各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章の種類を調和的に取り扱う必要がある。また、〔知識及び技能〕の「(3) 我が国の言語文化に関する事項」に位置付けられている「読書」に関する指導事項との関連を図り、生徒の日常の読書活動に結び付くように指導することも重要である。

文章を読み比べることを通して、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えるためには、同一の観点を設定し、観点に沿って2つの文章を読み比べることができるように指導することが重要である。

例えば、観点の設定をすることが個人では難しい生徒もいることが想定されることから、まずグループで読み比べの観点を設定するなど学習場面の工夫が考えられる。また、同一の観点で個人やグループで読み比べるなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について分析した内容を全体で共有したあとに、改めて個人で考える時間を設定するなど学習活動の工夫も考えられる。

本資料では、以上の工夫を踏まえた授業アイデアの一例を示す。

【学びの知恵袋(授業アイデア例)】

<小学国語・3年4年 話すこと・聞くこと>

<単元名> 「2年生に、新しく始まる学習について詳しく伝えよう」

<教材名> 「調べたことを資料にまとめて発表しよう」(教育出版3年下)

<主な指導事項> 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。【思考力、判断力、表現力等】A(1)イ

<言語活動とその特徴>

低学年の【思考力、判断力、表現力等】A(1)イを受けて、中学年では、話の中心的な部分が明確になるように構成を考える力を身に付けていく。そのため、伝えたいことが良く伝わるよう、相手のことを踏まえて理由や事例を検討する言語活動を設定した。

<単元計画>

| 次 | 時 | ○ 主な学習活動                                                                             | ・ 学習内容                 |
|---|---|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 一 | 1 | ○ 伝えたいことを決めて詳しく調べる。                                                                  | ・ 情報収集の仕方              |
| 二 | 2 | ○ 発表計画表を作り、発表の組み立てを考える。                                                              | ・ 話す内容の検討の仕方           |
|   | 3 | ○ 発表計画表をもとに練習する。<br>・ 話の順序を考える。<br>・ 話す内容に合わせ、資料を選び、検討する。<br>・ 資料や動画をどこで見せたら効果的か考える。 | ・ 話の中心部分を明確にする構成の組み立て方 |
| 三 | 4 | ○ 資料を使って発表する。                                                                        |                        |

自分の考えを相手に伝えるためには、資料を活用しながら話すことが大切です。そこで、本授業アイデア例では、自分の考えが伝わるように資料を活用したり、資料を提示しながら話す仕方について検討したりすることの指導事例を紹介します。

Aさんたちの学級では、2年生に向けて来年新しく始まる学習について紹介することにしました。Aさんは、リコーダーが始まることをやその楽しさを紹介することにしました。2年生が「早く吹いてみたい!」と思えるように、資料を使いながら話す練習をしています。

① Aさんが立てた課題

2年生にもリコーダーの魅力が伝わるように、話の順番(構成)や見せる資料をくふうする (ターゲット:これからリコーダーについて学ぶ2年生の子ども)

② Aさんの問いかけ



2年生にリコーダーの魅力を伝えるために、実際に吹いて聴かせたいんだ。お話の最初(1)に吹くか、まとめの時(2)に吹くか迷っているんだけど、どちらのタイミングがいいか聞き比べてアドバイスをもらってもいいかな。

③ 【スピーチの一部】



(1) ←ここで吹く?

みなさん、リコーダーはとてもきれいな音が出る楽器です。例えば、指の穴をしっかりとふさぐと、低い音から高い音まで自由に出せます。今は難しいかもしれないけれど、3年生になるとみんなで合奏もできるようになります。

(2) ←ここで吹く?

私は、みんなで声を合わせて歌うのと同じように、リコーダーで音を合わせるのが大好きです。

#### ④ 友達からの助言

(1)の最初に吹いたほうが良いと思うよ。最初にきれいな音を聴くと、2年生は『わあ、すごい!』って身を乗り出して話を聞いてくれると思うな。



私は(2)の最後に吹いたほうが良いと思う。最後に一番カッコいい曲を吹くことで、『あんなふうになりたい!』という気持ちが強く残るはずだよ。



指の説明をするときに、高い音と低い音をちょっとだけ吹いて(実演して)見せるのもわかりやすいんじゃない?



#### ⑤ Aさんの解決案



みんなのアドバイスを聞いて、今回は(1)の最初に吹くことにするね。まずは2年生にリコーダーの音を好きになってもらいたいから、一番明るい音色の曲を最初に吹いて、みんなの心を惹きつけたいと思います!

#### ⑥ 学習のポイント

スピーチやプレゼンテーションをする際には、目的や意図に応じて、より効果的な資料提示の順番やタイミングなどがあることを理解し、聞き手がどう感じたり、どんなことが分かったりしてほしいかを考えて、自ら判断できるように指導することが大切です。

今回は、中学年の児童が「下の学年にリコーダーの魅力を伝える」という設定を通して、実演(リコーダーを吹くこと)をどのタイミングで行えば、相手の心に最も響くかを検討します。音声と言葉だけでは伝わりにくい「音色」や「演奏の楽しさ」を伝える場合、実演のタイミングが重要になります。

- ・ **最初に示す:** 相手の関心を引きつけ、話に集中させる効果があります。
- ・ **途中で挟む:** 言葉の説明を補い、具体的なイメージ(指使いなど)を助ける効果があります。
- ・ **最後に示す:** 伝えたい印象を強調し、相手の行動意欲(やってみようという気持ち)を高める効果があります。

このように、目的に応じて、資料や実演を意図的に使い分けることが大切です。

#### ⑦ 本授業アイデア例活用のポイント

- ・ 本授業アイデア例のように、一人ひとりが自己の課題を見だし、課題について検討したり改善したりしながら学習を調整する過程を位置付け、協働的に解決しながら話す力を高めることができるように指導すると効果的です。
- ・ 資料を提示する際や、自分の発表を振り返る際などに ICT を活用すると効果的です。

## 【学びの知恵袋（授業アイデア例）】

文章を読み比べよう ～観点を明確にして、文章の構成や論理の展開、表現の効果を考えよう～

【本アイデア例と関連する問題及び学習指導要領における内容】

〔第2学年〕思考力、判断力、表現力等 C

エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。

### 教材

- 複数の説明的文章

### 学習の流れ

※本授業では、同じテーマについて、作者が異なる説明文を選定している想定

### 第1時

- ① 学習の導入を行う。



教師

2つの文章を読み比べる学習にとりくみます。まずは2つの文章を読んで、それぞれの文章からどのような印象を受けたかを共有しましょう。

- ② 2つの文章を読み、それぞれの文章からどのような印象を受けたかを共有する。

〔生徒の発言の例〕



私は、文章 A がわかりやすいと感じました。

文章 A は堅苦しい感じがしました。私は文章 Bの方が読みやすかったです。



※その他、好き・嫌い／納得できた・できなかった／興味をもった・もてなかった 等の反応も考えられる。

※口頭で発表・共有する以外にも、クラウド上で共有したり、複数人で交流したりすることが考えられる。

- ③ 学習の見直しをもつ。



教師

同じ文章を読んでも、人によっていろいろな印象をもっていることがわかりますね。これらの印象の違いは何によって生じるのでしょうか？この単元では、2つの文章を読み比べて分析することを通して、その理由に迫っていきましょう。

(単元の指導計画例)

二つの文章を読み比べ、それぞれの特徴とその効果を考えよう

【第一次】 1時間

1. 文章の通読
2. 2つの文章を読んだ印象の交流
3. 単元の流れの把握

【第二次】 2時間

1. 読み比べの観点の設定
2. 2つの文章の読み比べ(個人→グループ)

【第三次】 1時間

1. 第二次の内容の交流
2. グループでの再検討

【第四次】 1時間

1. 単元のまとめ・振り返り

※学習活動だけでなく、目標および単元計画を共有する。必要に応じ、ルーブリックを提示することも考えられる。

第2時

第3時

④ 読み比べの観点を考える。

※なぜ同一の観点で比べることが大切なのか理由も確認することが有効である。



教師

比較をするときには、同一の観点で比べることが大切です。文章の読み比べをするときにはどのような観点が考えられるでしょうか？

[生徒の反応の例]

前に文章の読み方を  
学習したな。



文章の展開の違いを  
比べたら面白いかな。

○文章の読み比べの観点(例)

・構成 ・展開 ・具体例(数、内容、あげ方、…) ・段落数 ・文体 ・表現 等

※比較することに関わる、他教科等での学習経験と関連させることも有効である。

※グループで話し合いをする前に、生徒の実態に応じて、教師が観点(例)を1~2つ程度提示し

たのちに、生徒に考えさせるなどの工夫が考えられる。

⑤ グループで読み比べの観点を設定する。

[生徒の発言の例]

私は、文章の展開の違いを比べたいです。

私は、文章の表現の仕方を比べたいです。



いろいろな意見が出ましたが、前に学習したことを踏まえて、文章の展開にしましょう。

私は、文章の構成の仕方を比べたいです。

※本アイデア例では個人→グループという流れをとっているが、授業のねらいや生徒の実態によっては、形態を生徒に選択させることも考えられる。

⑥ 観点に沿って2つの文章を読み比べる。



教師

グループで設定した観点に沿って、2つの文章を読み比べて分析をしましょう。分析の際は、特徴を挙げるだけでなく、その特徴がどのような効果を出しているのかも考えるようにしましょう。今回は、クラウドを活用して、共同編集を行きましょう。



※教師が時間を細かく区切るのではなく、取り組み方(取り組む順番、時間配分、まとめの方法等)は生徒に委ねることも考えられる。

※まとめの方法は、フレームワークや表にまとめる、付箋を用いる等が考えられる。

第4時

⑦ 各グループの分析結果をクラウド上で共有する。

※第三次においては、個人で読んで考える時間をしっかり確保することが大切である。



教師

他のグループの分析結果を読んだあとに、もう一度グループで考える時間を取ります。自分たちと同じ考えは何か、異なる考えは何か、自分たちには欠けていた視点はないか等を意識してください。わからないことがあったら、直接そのグループに確認しても構いません。

※クラウド上ではなく、ワールドカフェ等の方法で共有することも考えられる。

⑧ 各グループの分析結果についての気づきや疑問をグループ内で共有し、自分たちの分析結果を再検討する。

### 第5時

⑨ 単元を通してのまとめをする。



教師

前回までの学習で、2つの文章には様々な特徴と、それによる効果があることが分かりましたね。授業の初めには、皆さんはそれぞれの文章に対して、「わかりやすい」「読みやすい」「堅苦しい」などいろいろな印象を抱いていました。では改めて、皆さんがそれぞれ感じた印象は何によって生じたのでしょうか。これまでの学習を踏まえて、各自でまとめに取り組みましょう。

⑩ まとめの内容をクラウド上で共有する。

[生徒の反応の例]

同じテーマなのに、伝わり方が異なるのは、文章の表現の仕方が、作者によって違うからだと気付いた。



同じ伝えたいことなのに、印象が異なるのは、文章の構成が違うからだと気付いた。

※「よい気づき」があった生徒については、教師が価値づけし、全体で共有する。

※何人かの生徒のものを取り上げ全体で共有したり、ペアワークや複数人で交流したりする方法等が考えられる。

⑪ 単元を通してのまとめの振り返りを行う。

#### 振り返りの観点(例)

- ・文章の構成や論理の展開、表現の工夫などが文章にどのような影響を与えているか。
- ・単元の学習を通して気づいたことや学んだことをどのような場面で生かすことができるか。
- ・自分の学習への取り組み方、学び方はどうだったか。

※振り返りは、個人で行うとともに、クラウド上で内容を共有したり、複数人で交流したりすることが考えられる。「よい気づき」があった生徒については、教師が価値づけし、全体で共有する。

【本アイデア例を活用する際のポイント】

○教材文の選定にあたっては、生徒の実態を踏まえつつ、生徒の多様な反応を引き出すことができるものを選ぶことができるよう、まずは教師自身が様々な観点で文章を分析するなど、十分な教材研究を行うことが重要である。

令和7年度 さいたま市学習状況調査委員会・教科等部会名簿【国語】

|                |         |    |        |
|----------------|---------|----|--------|
| 【小学校校長会】       | 下落合小学校  | 校長 | 小田切 倫子 |
| 【中学校長会】        | 上大久保中学校 | 校長 | 高久 正行  |
| 【活用推進委員会(小学校)】 | 大東小学校   | 校長 | 多田 嘉典  |
| 【活用推進委員会(中学校)】 | 与野西中学校  | 校長 | 内田 崇史  |

【小学校国語科部会】

|     |        |    |       |
|-----|--------|----|-------|
| 部長  | 沼影小学校  | 校長 | 大森恵美子 |
| 副部長 | 大宮南小学校 | 教頭 | 佐藤 大介 |
| 部員  | 高砂小学校  | 教諭 | 山中 美奈 |
|     | 木崎小学校  | 教諭 | 小山 典子 |
|     | 北浦和小学校 | 教諭 | 森永 崇寛 |
|     | 土合小学校  | 教諭 | 小瀬村治彦 |
|     | 野田小学校  | 教諭 | 須藤 祥子 |
|     | 新開小学校  | 教諭 | 小崎 景綱 |
|     | 善前小学校  | 教諭 | 佐藤真奈美 |
|     | 芝原小学校  | 教諭 | 稲田 真人 |
|     | 三橋小学校  | 教諭 | 板垣 貴斗 |
|     | 大谷小学校  | 教諭 | 高橋佳那子 |
|     | 上落合小学校 | 教諭 | 若狭 彩香 |
|     | 与野南小学校 | 教諭 | 神田 香利 |

【担当】

|         |        |       |
|---------|--------|-------|
| 教育研究所   | 主任指導主事 | 橋本 貴大 |
| 教育課程指導課 | 主任指導主事 | 松村 愛  |

【中学校国語科部会】

|     |            |    |       |
|-----|------------|----|-------|
| 部長  | 大宮北中学校     | 校長 | 廣江 剛  |
| 副部長 | 大宮南中学校     | 教頭 | 阿部 史朗 |
| 部員  | 原山中中学校     | 教諭 | 碓氷 愛実 |
|     | 本太中学校      | 教諭 | 服部 瑤子 |
|     | 内谷中学校      | 教諭 | 戸政まりな |
|     | 桜木中学校      | 教諭 | 須賀 速斗 |
|     | 大谷中学校      | 教諭 | 井口 百恵 |
|     | 第二東中学校     | 教諭 | 松尾 彩  |
|     | 西原中学校      | 教諭 | 渡辺 光祐 |
|     | 美園南中学校     | 教諭 | 平井 亮  |
|     | 大宮国際中等教育学校 | 教諭 | 川上 由貴 |

|         |        |        |
|---------|--------|--------|
| 教育研究所   | 主任指導主事 | 吉野山 慎  |
| 教育課程指導課 | 指導主事   | 佐々木 優介 |

---

令和7年度 さいたま市学習状況調査 解説資料【改訂版】 国語

令和8年2月 発行

発行 さいたま市教育委員会

編集 さいたま市立教育研究所

---